

平成 27 年度 施策評価シート

基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
概要	町の自然、歴史・文化を発掘し活用するとともに、町民の暮らしに自然を取り込み、豊かな暮らしづくりを創造しようとする取組を、二宮の自然、文化、住環境の魅力づくりとして発展させます。

基本計画(分野別方針)事業名	実施計画 事業数	総合評価
(1) 生涯学習の役割の明確化	1	B
(2) 青少年の育成	2	B
(3) 文化振興の推進	1	B
(4) ふるさと教育の推進	1	B
(5) 生物多様性の保全	1	A
(6) 循環型社会の推進	2	A
(7) 低炭素社会の形成	1	B
(8) 公共下水道の整備と管理	1	A
(9) 公園・広場の充実と適切な管理運営	1	B
(10) 緑地の保全と緑化の促進	3	A
(11) 町民活動創出支援	1	B
(12) 人権・平和の推進	2	A
課題 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・協働のまちづくりを進めるため、新たな団体の育成や既存団体への更なる支援が必要となる ・近年、緑地が減少する中、緑の保全と創出の重要性は高まっていて、公園や街路樹などの維持管理費の抑制について検討が必要である。 	

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き施策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 施策を推進するためには、事業を改善する必要がある D: 施策全体を見直す必要がある		B
	説明	・豊かなくらしづくりを目指し、身近な自然環境を生かした事業の推進や魅力ある住環境の整備に努めており、引き続き適切に維持管理をしていく。	
方向性	・町の財産である「自然、歴史、文化」などは長い時間を経て形成されてきたものであり、将来へ引き継ぐために、各事業を継続や見直しして行く必要がある。そのため、くらしに役立つ潜在的な有効資源を掘り起こし、豊かなくらしづくりを目指すため、身近な環境から暮らしやすさを向上させる必要がある。		

◎最終評価者[庁内評価委員会]

A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き施策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 施策を推進するためには、事業を改善する必要がある D: 施策全体を見直す必要がある		B
意見等	町民の身近な環境から暮らしやすさを向上させるために、引き続き各計画に基づき、事業を見直しながら遂行していく必要がある。	

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	生涯学習課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(1)生涯学習の役割の明確化
実施計画事業	1)生涯学習振興事業(No.34)

	予算事業名	事業費 執行率(%)	総合評価
01	にのみや町民大学推進事業	98.7%	B
02	図書館資料整備事業	99.3%	B
03	社会教育委員経費	99.2%	B
04			
05			

課題 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・町民大学づくりを進めるために、今後さらなる指導者養成が必要。 ・利用者のニーズに対応した図書、雑誌の収集および資料費の確保が必要。 ・社会教育委員が自ら考え、研究できるテーマや運営方法の検討が必要。
--------------	--

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	説明	民の学習機会の提供や情報提供は効率的に行われているが、各事業に改善の余地がある

方向性			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	今後改善点を検討し、さらなる充実を図っていく。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	町民の学習機会の提供や情報提供が効率的に行われているが個別に改善が必要である。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生涯学習課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力				
分野別方針	(1)生涯学習の役割の明確化		実施計画事業	1)生涯学習振興事業(No.34)				
予算等事業名	にのみや町民大学推進事業							
目的	学習機会の提供や学習相談や情報提供などの学習支援を行い、町民の生涯学習の推進を図る。							
内容	学習機会の提供や学習相談や情報提供などの学習支援を行い、町民の生涯学習の推進を図る。また生涯学習指導者の養成・育成を行い、町民が主体となった町民大学をめざす。							
根拠法令・条例等								
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		講座の企画内容により検討は可能である。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		講座の運営方法や企画内容により効率化の検討は可能である。							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 多種多様なニーズに対応し、多くの町民の学習機会を提供している。							

総合評価

実績	にのみや町民大学講座の開催							
中間評価との相違点								
事業指標(数値指標)								
前期(27年度)目標値					【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
単位:								
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	町民大学講座の実施状況(講座のジャンル、参加定員充足率、参加者の反応等)				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,866	1,822	1,870	1,846		
財源内訳	一般財源	1,564	1,608	1,679	1,703		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	302	214	191	143		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町民の生涯学習を推進していく上で、ある程度の公費投入は必要である。	
	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	
	【説明】 現状においても、生涯学習ボランティアに事業委託をしている。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 町民の生涯学習のきっかけ作りとしてはある程度効果があると言える。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 事業費用を抑え、材料費等は受益者負担により行っている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 町民の学びのきっかけづくりとしては効果を上げてきた。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	さらなる町民が主体となった町民大学づくりを進めるために、指導者養成について検討していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	団体に委託することで少ない費用で成果をあげている。		
今後の方向性	今後も継続していく。また、指導者の育成にも力を注ぐ必要がある。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生涯学習課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(1)生涯学習の役割の明確化		実施計画事業	1)生涯学習振興事業(No.34)
予算等事業名	社会教育委員経費			
目的	学習機会の提供や学習相談や情報提供などの学習支援を行い、町民の生涯学習の推進を図る。			
内容	社会教育振興のための会議を開催し、関係事業についての調査研究を行う			
根拠法令・条例等	社会教育法、二宮町社会教育委員条例			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		旅費等の部分でのある程度の削減は可能である。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		会議の運営方法等による効率化は図ることは可能である。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 社会教育委員会会議では委員から積極的な意見が出ているため、今後も継続して実施する。			

総合評価

実績	社会教育委員会会議を開催(第1回…平成25年5月23日、第2回…10月2日、第3回…平成26年2月19日)			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	社会教育委員会会議の開催回数			
前期(27年度)目標値	3回			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成25年度の実施回数の維持
	3回	3回		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		152	135	184	137		
財源内訳	一般財源	152	135	184	137		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 社会教育を推進していく上で、社会教育委員会議は必要である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 教育委員会が行う社会教育事業についての諮問機関であり、町が主導で行う必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 様々な分野の委員がおり、事業を実施していく上で役立っている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 費用をかけずに意見聴取ができています。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 より社会教育委員に参画してもらうため、社会教育委員会議のテーマの持ち方、社会教育委員の役割について検討していく必要がある。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	・社会教育事業の実績報告についての意見聴取が主体となっているので、社会教育委員が自ら考え、研究できるような運営方法を検討する必要がある。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	社会教育委員会議は社会教育振興のため必要な組織であり、年3回の開催も妥当である。		
今後の方向性	今後も継続して行く。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生涯学習課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点の方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力				
分野別方針	(1)生涯学習の役割の明確化		実施計画事業	1)生涯学習振興事業(No.34)				
予算等事業名	図書館資料整備事業							
目的	学習機会の提供や学習相談や情報提供などの学習支援を行い、町民の生涯学習の推進を図る。							
内容	図書資料の整備に努め、情報提供の場をつくり、サービスの向上を図る。							
根拠法令・条例等								
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる			<input type="checkbox"/>	② 削減は困難			
理由								

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる			<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難			
理由								

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 計画未実施のため継続の必要性がない(休止・廃止)						
	【説明】						

総合評価

実績							
中間評価との相違点							
事業指標(数値指標)	0						
前期(27年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】						
単位:							
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		6,550		6,550	6,506		
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	
	【説明】	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	
	【説明】	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	
	【説明】	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	
	【説明】	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)		

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由			
今後の方向性			

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	生涯学習課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(2) 青少年の育成
実施計画事業	1) 青少年育成支援事業(No.35)

	予算事業名	事業費 執行率(%)	総合評価
01	青少年育成地域活動事業	93.9%	B
02	青少年社会環境浄化活動関係経費	99.4%	A
03	子ども会活動支援事業	92.9%	B
04	成人祝賀会関係経費	100.0%	A
05			
課題 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会、恵友会(中学生サークル)等青少年団体への加入者が年々減少している。 ・研修会の参加を増やす方法を検討する。 		

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	説明	環境浄化活動及び成人祝賀会事業については現状どおりとするが、青少年育成地域活動事業や子ども会活動事業は、時代の変化に合わせ、改善する余地がある。

方向性			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	社会のニーズを把握し、事業の更なる改善を検討する。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	少子化や青少年の意識の変化により、各種事業に参加する青少年が減少してきている。地域の皆さんと共に青少年育成に取り組む必要があると思われる。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生涯学習課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(2) 青少年の育成		実施計画事業	1) 青少年育成支援事業 (No.35)
予算等事業名	青少年育成地域活動事業			
目的	青少年指導員の指導・助言により、子ども達の健全育成のため、地域のジュニアリーダーの育成を図るとともに、子ども会活動を支援する。また、青少年関係団体との連携に努め、青少年を取り巻く社会環境の浄化活動を行う。			
内容	青少年指導員の指導・助言により、地域青少年の健全育成を図る。			
根拠法令・条例等	神奈川県青少年保護育成条例 二宮町青少年指導員設置規則			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由	青少年指導員が主体となってジュニアリーダーの養成事業を実施している。			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	養成研修の内容によっては若干の削減は可能である。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	養成研修の内容や運営方法によっては可能である。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】	青少年の参加が少なくなっているが、地道に継続していくことが必要である。		

総合評価

実績	青少年指導員連絡協議会(年5回)、ジュニアリーダー養成研修会の開催(年4回)、中学生交流洋上体験研修事業、一市四町青少年交流キャンプ			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)				0
前期(27年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	青少年指導員連絡協議会(年5回)、ジュニアリーダー養成研修会の開催(年4回)、中学生交流洋上体験研修事業、一市四町青少年交流キャンプの実施状況

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,651	1,450	1,449	1,361		
財源内訳	一般財源	1,479	1,269	1,348	1,161		
	国庫支出金						
	県支出金	172	181	160	200		
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 町として青少年の健全育成を進めていく必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	B
	【説明】 一部委託で行っている事業もあるが、町が主導して指導者育成を進めていく必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 青少年のリーダー養成としてはある程度成果が上がっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 野外研修等では、受益者負担にするなど、費用をかけずに実施している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 研修等に参加する青少年には効果的であるが、参加者が少なくなっている。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	青少年が参加しやすい実施内容・方法等の検討が必要である。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	青少年の健全育成の諸事業が関係団体と連携して実施されている。		
今後の方向性	今後も継続して行く。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生涯学習課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(2) 青少年の育成	実施計画事業	1) 青少年育成支援事業 (No.35)
予算等事業名	青少年社会環境浄化活動関係経費		
目的	青少年指導員の指導・助言により、子ども達の健全育成のため、地域のジュニアリーダーの育成を図るとともに、子ども会活動を支援する。また、青少年関係団体との連携に努め、青少年を取り巻く社会環境の浄化活動を行う。		
内容	青少年を取り巻く社会環境の浄化活動の推進及び社会教育関係団体との連携により、町内をパトロールして青少年の非行化防止に努める。また、青少年の指導育成保護及び矯正に関する事項を審議し、青少年関係団体との連携に努める。		
根拠法令・条例等			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている <input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由	環境浄化推進員の協力により、定期的にパトロールや啓発事業を実施している。		

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	啓発物品の削減等で検討は可能である。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	現状において効率的に実施できているため、これ以上は困難であると考える。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		A
	【説明】 今後も地道に啓発やパトロールをしていくことが必要である。		

総合評価

実績	環境浄化パトロール(6回)、青少年健全育成街頭キャンペーン(2回)、愛のパトロール(4回)を実施		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)			
前期(27年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
単位:			
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	環境浄化パトロール、愛のパトロール、青少年健全育成街頭キャンペーンの実施回数、実施状況等		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		392	392	179	178		
財源内訳	一般財源	348	392	132	104		
	国庫支出金						
	県支出金	44	0	47	74		
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 継続的にパトロールや啓発活動を行っていくことが必要であり、妥当である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	B
	【説明】 関係機関(県土木事務所、大磯警察等)との連携もあるため、町が主体となった方がよい。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 パトロールにおいて特に青少年の問題行動等はなく、地道な効果が上がっているといえる。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 費用をかけずに成果をあげている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 今後も継続してパトロールや啓発活動を行っていくことが必要である。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も継続してパトロールや啓発活動を行っていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	青少年の非行を防止するためにパトロールや啓発活動を行うことは必要なことである。		
今後の方向性	今後も継続していく。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生涯学習課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(2) 青少年の育成		実施計画事業	1) 青少年育成支援事業 (No.35)
予算等事業名	子ども会活動支援事業			
目的	青少年指導員の指導・助言により、子ども達の健全育成のため、地域のジュニアリーダーの育成を図るとともに、子ども会活動を支援する。また、青少年関係団体との連携に努め、青少年を取り巻く社会環境の浄化活動を行う。			
内容	子ども達の健全育成のため、各種活動を通して、友情・協力・奉仕の精神を培い、心豊かに育つよう子ども会活動の支援に努める。			
根拠法令・条例等				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由	子ども会育成会の協力のもと、計画通りに進んでいる。			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	最低限の経費で実施しており、削減するには事業規模の変更が必要である。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	子ども野外研修においては、子ども会育成会との連携・協力のもと、年数を重ね、効率的なノウハウが蓄積されている。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】	青少年の貴重な社会教育の場として今後も事業を推進していく。		

総合評価

実績	子ども野外研修の開催(7月26日～28日)、子ども会指導者・青少年指導員合同研修会(2回)の実施、子ども会事業への補助			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)				
前期(27年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	子ども野外研修の参加者、子ども会加入率、事業の実施状況

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		3,204	2,831	3,204	2,976		
財源内訳	一般財源	2,161	1,856	2,211	2,081		
	国庫支出金						
	県支出金	193	300	193	300		
	その他	850	675	800	595		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 子ども会活動は地域活動を行う上で重要な活動であり、支援として公費投入は妥当である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	
	【説明】 町が行う部分(指導者研修)と委託(野外研修)、補助金(子ども会事業)とすみ分けしている。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 子ども野外研修等による子どもの社会教育の場づくりとしては一定の成果があるといえる。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 参加者に費用負担や材料を持参してもらうなど、極力経費を抑え運営している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 子ども野外研修では一定の成果があるといえるが、子ども会の加入率が減っているため、検討が必要。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	・子ども会に入ると、役員が回ってくるので、加入したくないという保護者が多くなってきている。子ども会事業の在り方について検討する必要がある。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	魅力ある子ども会とするために町が支援して行くことは必要である。		
今後の方向性	今後も継続していく。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生涯学習課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(2) 青少年の育成		実施計画事業	1) 青少年育成支援事業 (No.35)
予算等事業名	成人祝賀会関係経費			
目的	青少年指導員の指導・助言により、子ども達の健全育成のため、地域のジュニアリーダーの育成を図るとともに、子ども会活動を支援する。また、青少年関係団体との連携に努め、青少年を取り巻く社会環境の浄化活動を行う。			
内容	新たに成人した青年達を祝福し、社会人としての自覚と責任について認識していただき、二宮町民としての意識の高揚に努める。			
根拠法令・条例等				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由	成人祝賀会実行委員会と連携し、計画通り進んでいる。			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	懇親会等の内容を検討すれば、削減は可能である。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	式典後についての検討により、効率化は図れる。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】	成人を祝う場として今後も事業を実施していく。		

総合評価

実績	成人祝賀会の実施(平成27年1月12日) 出席者新成人207名			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)				
前期(27年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	成人祝賀会の実施状況

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		130	130	130	130		
財源内訳	一般財源	130	130	130	130		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 二宮町の将来を担う新成人を祝福することに公費を投入することは妥当である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 新成人からなる実行委員会に補助金を出し、成人祝賀会への支援は妥当である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 多くの同級生が集うことで、大人としての意識を高める場として成果を上げている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 懇親会は参加費を徴収し、費用をかけずに成果をあげている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 今後も新成人を祝福する場として実施していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も新成人を祝福する場として実施していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	新たに成人した青年達を祝福し、社会人としての自覚と責任について認識してもらう場として必要である。		
今後の方向性	今後も継続して行く。		

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	生涯学習課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(2) 青少年の育成
実施計画事業	2) 家庭・地域・学校の協力連携事業(No.36)

	予算事業名	事業費 執行率(%)	総合評価
01	家庭・地域教育推進事業	92.2%	B
02			
03			
04			
05			

課題 (箇条書き)	・放課後子ども教室の次年度本格実施への課題、問題点の検討が必要。
--------------	----------------------------------

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	説明	子どもチャレンジ等委託事業は計画通りに実施され成果がみられるが、放課後子ども教室の今後について検討する。

方向性			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	今後も継続実施して行くが、社会状況や町民のニーズに合わせた内容となるよう検討していく。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	放課後子ども教室(試行)については、適切な運営手法等の決定をする必要がある。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生涯学習課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(2) 青少年の育成		実施計画事業	2) 家庭・地域・学校の協力連携事業 (No.36)
予算等事業名	家庭・地域教育推進事業			
目的	家庭や地域社会の教育の充実を図るため、講座・研修会等を開催する。			
内容	家庭や地域社会の教育の充実を図るため、講座・研修会等を開催する。			
根拠法令・条例等				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由	計画通り、放課後子ども教室やPTA研修等の事業を遂行している。			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	講座の回数、企画内容によって可能である。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	講座の回数、企画内容によって可能である。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】	社会の変化や町民のニーズ等の動向を見ながら、適切な事業実施をめざしていく。		

総合評価

実績	PTA役員研修、PTA家庭教育学級への補助、子育てゼミナール(3回)、放課後子ども教室(12回)、子どもチャレンジ教室(8講座)			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)				0
前期(27年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	上記事業の実施状況(参加者数、参加者の反応等)

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		749	627	683	630		
財源内訳	一般財源	570	495	571	503		
	国庫支出金						
	県支出金	136	59	64	89		
	その他	43	73	48	38		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 子育て支援、子どもの健全育成に係わる事業であり、公費を使うのは妥当である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	B
	【説明】 町が主導となって行った方がよい事業もあるが、委託で出来る部分は委託して行っている。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 子育て支援、子どもの体験活動の場、安心な居場所づくりとして成果を上げている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 参加料を徴収し、極力費用を抑え実施している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 子どものより良い居場所づくりについて、さらなる検討が必要である。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	放課後の居場所づくりを試行的に行い、ニーズや問題点を探る。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	平成26年度から放課後子ども教室を試行し、事業実施後にあり方を検討することになっている。
今後の方向性	事業実施について、課題を見つけ、改善することも必要である。

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	生涯学習課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(3)文化振興の推進
実施計画事業	1)文化振興事業(No.37)

	予算事業名	事業費 執行率(%)	総合評価
01	文化振興事業	99.9%	B
02			
03			
04			
05			

課題 (箇条書き)	・にのみや音楽祭の規模縮小に伴う参加者および観客の人数確保。
--------------	--------------------------------

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	説明	町の文化振興のため、芸術や文化に親しむ機会を提供することは必要。予算に見合った事業の実施は適正である。

方向性	
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施
<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	文化活動発表の場の提供や団体育成補助など効果的に実施されているが、にのみや音楽祭など、予算の縮小に対する事業の見直しは必要である。

◎評価者[担当主管部長]	
<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施
<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	文化活動発表の場の提供や団体育成補助などが効果的に実施されている。しかし、会員数の減少など各種団体も課題を抱えている。

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生涯学習課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(3)文化振興の推進		実施計画事業	1)文化振興事業(No.37)
予算等事業名	文化振興事業			
目的	町民の文化・芸術活動を奨励し、活動をとおして町民相互の交流を深め心豊かな心でうおいのある生活ができるよう開催する。			
内容	町民の文化・芸術活動を奨励し、活動をとおして町民相互の交流を深め心豊かな心でうおいのある生活ができるよう開催する。			
根拠法令・条例等				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③未実施
②、③に対する理由	文化祭やミュージックフェスタ等計画通りに実施している。			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	事業規模や内容によっては検討可能である。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	事業内容によっては可能である。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】	今後も町民活動の活性化や文化の向上につながる事業展開を検討しながら実施していく。		

総合評価

実績	ミュージックフェスタin二宮(8月9日・10日)、文化祭(10月18日～11月4日)、ラディアンピアノマラソンコンサート(3月21日)、文化団体連盟への補助、文化振興団体への補助			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)				
前期(27年度)目標値				【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	ミュージックフェスタinにのみや、文化祭、ラディアンピアノマラソンコンサートの実施状況

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		2,268	2,267	2,345	2,342		
財源内訳	一般財源	1,568	1,602	1,614	1,631		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	700	665	700	711		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 町の文化の振興を推進するため、公費の投入は妥当である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	B
	【説明】 一部の事業については、団体や実行委員会に委託している。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 ラディアンホール等を生かし、多様な文化事業を展開している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 文化団体連盟や実行委員会等が運営へ参画し、経費をかけずに実施できている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 さらに多くの方に芸術や文化に親しむことが求められる。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	観覧者をもっと増やす工夫が必要である。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	ミュージックフェスタ、ピアノマラソンコンサートなど、町民の文化、芸能活動の推進の一助になっている。		
今後の方向性	今後も継続して行く。		

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	生涯学習課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(4) ふるさと教育の推進
実施計画事業	1) ふるさと教育推進事業 (No.38)

	予算事業名	事業費 執行率 (%)	総合評価
01	文化財保護普及啓発事業	98.9%	A
02	伝統芸能保存事業	99.7%	A
03	埋蔵文化財調査事業	57.6%	B
04			
05			

課題 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> 文化財保護事務嘱託員の配置は今後も必要。 埋蔵文化財の包蔵地が多い二宮町は、その調査のための専門員の配置は必要。 埋蔵文化財の発掘調査費用の確保。
--------------	---

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	説明	文化財保護条例に基づいた事業の遂行が図られているが、継続的な専門員配置が必要である。

方向性			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	町の文化財の保護、継承に努めるため、必要な予算措置は今後も必要である。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	<ul style="list-style-type: none"> 伝統芸能保存事業については、地域の方々には伝統行事等の継承に努力されている。町の文化として団体育成や発表の場を確保して行く必要がある。 埋蔵文化財調査事業については、発掘調査のための専門員の配置は継続的に必要である。 		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生涯学習課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(4) ふるさと教育の推進		実施計画事業	1) ふるさと教育推進事業 (No.38)
予算等事業名	文化財保護普及啓発事業			
目的	町指定文化財の管理運営を補助するなど、町の文化財保護の推進を図るとともに、歴史や文化財を町民に広く周知し、文化財保護の思想を高め、町を愛する心を養う。			
内容	町の文化財保護推進を図り、歴史や文化財を町民に周知し、文化財保護の思想を高め、町を愛する心を養う。また町指定文化財の管理運営を補助する。			
根拠法令・条例等	文化財保護法 文化財保護条例			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/> ② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施	
②、③に対する理由	文化財保護委員会、バーチャル郷土館の更新など計画通りに進んでいる。		

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/> ① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/> ② 削減は困難		
理由	現状において、最低限の経費で実施しており、これ以上の削減は文化財保護の観点から難しい。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input type="checkbox"/> ① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/> ② 効率化は困難		
理由	専門的知識が必要な分野であり、効率性重視では推進できない部分がある。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 今後も文化財保護事務嘱託員を配置し、専門的知識に基づいた推進を図っていく。	

総合評価

実績	文化財保護事務嘱託員の配置、文化財保護委員会の開催(2回)、バーチャル郷土館の更新、町指定文化財管理補助		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)	0		
前期(27年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度
			文化財保護委員会の開催、バーチャル郷土館の更新状況

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		2,259	2,240	2,013	1,991		
財源内訳	一般財源	2,259	2,240	2,013	1,991		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 文化財保護普及は町が率先してすべきであり、公費を投入することは妥当である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町が主導により行う必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 文化財保護事務嘱託員の配置により、専門的な対応が可能となっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 費用をかけずに、保護普及に努めている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 文化財保護事務嘱託員の配置により、適切な対応ができています。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も専門職の配置と文化財保護委員の意見聴取を行い、適切な普及啓発が必要である。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	平成25年度まで町の嘱託員による文化財保護事業を行っていた。		
今後の方向性	今後、町の嘱託員を雇用し、文化財保護事業を推進して行く必要がある。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生涯学習課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(4) ふるさと教育の推進		実施計画事業	1) ふるさと教育推進事業 (No.38)
予算等事業名	伝統芸能保存事業			
目的	町指定文化財の管理運営を補助するなど、町の文化財保護の推進を図るとともに、歴史や文化財を町民に広く周知し、文化財保護の思想を高め、町を愛する心を養う。			
内容	郷土に伝わる芸能を広く町民に知っていただき、その保存と育成を目指し、大会の開催や団体の育成をはかる。			
根拠法令・条例等	文化財保護法 文化財保護条例			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/> ② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施	
②、③に対する理由	民俗芸能のつどいや団体補助など計画通り進んでいる。		

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 検討できる	<input type="checkbox"/> ② 削減は困難		
理由	検討の余地はあると考えるが、民俗芸能団体との調整が必要となってくる。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 検討できる	<input type="checkbox"/> ② 効率化は困難		
理由	検討の余地はあると考えるが、民俗芸能団体との調整が必要となってくる。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		A
	【説明】 町の伝統芸能の保存と継承のため、引き続き事業を推進していく。		

総合評価

実績	民俗芸能団体への支援、民俗芸能のつどいの実施(10月26日)		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)			
前期(27年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	民俗芸能のつどいの実施状況、民俗芸能団体への支援		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		618	615	913	910		
財源内訳	一般財源	618	615	913	910		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 伝統文化を継承していく支援を行うため、公費を投入するのは妥当である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	B
	【説明】 民俗芸能のつどいは、民俗芸能保存会連絡協議会との共催で実施している。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 民俗芸能のつどいが日頃の成果発表の場となり、活動の励みとなっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 費用をかけずに一定の成果を上げている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 伝統芸能の継承のため、継続して実施する必要がある。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も民俗芸能保存会への支援、協力・連携体制を深めていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	町の伝統芸能の保存、育成は町が団体を支援して行くことが必要である。		
今後の方向性	今後も継続して行く。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生涯学習課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(4) ふるさと教育の推進		実施計画事業	1) ふるさと教育推進事業 (No.38)
予算等事業名	埋蔵文化財調査事業			
目的	町指定文化財の管理運営を補助するなど、町の文化財保護の推進を図るとともに、歴史や文化財を町民に広く周知し、文化財保護の思想を高め、町を愛する心を養う。			
内容	埋蔵文化財包蔵地内の開発行為等において、必要に応じて試掘調査を行い、埋蔵文化財保護のための行政資料とする。			
根拠法令・条例等	文化財保護法 文化財保護条例			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由	県職員の協力のもと、状況に応じて立会や試掘等の対応をしている。			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	文化財保護法に基づき、建築行為や開発行為において対応が必要であり、削減は困難である。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	文化財保護法に基づき、建築行為や開発行為において対応が必要であり、検討は困難である。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			B
	【説明】 町として専門職の配置をし、適切な事務処理による推進が必要である。			

総合評価

実績	埋蔵文化財調査員の配置、埋蔵文化財の試掘調査			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)				
前期(27年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	埋蔵文化財包蔵地についての照会、試掘調査の状況等

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,538	1,360	648	373		
財源内訳	一般財源	1,538	1,360	648	373		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 埋蔵文化財の保護について公費を投入することは妥当である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 町が主導となって埋蔵文化財の周知・保護に係わる必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 埋蔵文化財の専門職員の配置により、専門的な対応が可能となった。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	B
	【説明】 埋蔵文化財の保護には発掘、調査が必要であり、費用がかかる。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 妥当性・有効性はあると言えるが、費用面がかかるため、検討の余地がある。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	埋蔵文化財の町としての在り方を検討する必要がある。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	埋蔵文化財の調査は必要なことであるが、該当する埋蔵文化財が多くなりすぎると町の財政を圧迫してしまう。
今後の方向性	埋蔵文化財の調査をどこまでするか、検討の余地がある。

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	生活環境課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(5) 生物多様性の保全
実施計画事業	1) 美化推進・動植物保全事業 (No.39)

	予算事業名	事業費 執行率 (%)	総合評価
01	美化推進事業 (ゴミゼロキャンペーン)	100.0%	A
02	動物の保護管理事業	63.4%	A
03	公害防止対策事業 (河川水質・地域要望環境測定)	70.7%	A
04			
05			

課題 (箇条書き)	県、団体、町民等と連携して事業を実施する必要がある。
--------------	----------------------------

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない (休止・廃止)	A
	説明	県、団体、町民等と連携して530(ゴミゼロ)キャンペーンを実施した。 狂犬病予防法及び鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律に基づき、事業を実施した。

方向性			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	美化推進事業については、環境意識の高揚を図るため、継続して実施する必要がある。 動物の保護管理事業は、狂犬病予防法及び鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律に基づき、事業を実施する必要がある。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	住みよい町づくりのため、良好な住環境の維持やペット及び野生動物の適正な管理は必要である。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生活環境課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(5) 生物多様性の保全	実施計画事業	1) 美化推進・動植物保全事業 (No.39)
予算等事業名	美化推進事業(ゴミゼロキャンペーン)		
目的	生物多様性の保全のため、環境意識の高揚を図ることを目的としたゴミゼロキャンペーンを実施する。また町の中心を流れる葛川の美化を図る。 住環境向上のため有害鳥獣対策の実施及び狂犬病予防注射の促進を行う。		
内容	環境意識の高揚を図るため、ゴミゼロキャンペーンを実施する。また町の中心を流れる葛川の美化を図り、住みよい環境作りを推進する。		
根拠法令・条例等	二宮町環境基本条例 二宮町廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例		
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/> ② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施	
②、③に対する理由			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/> ① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/> ② 削減は困難		
理由	参加者の保険費用など必要最低限の費用で実施しているため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input type="checkbox"/> ① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/> ② 効率化は困難		
理由	梅沢海岸だけでなく地域清掃を一斉に行うなど効率化を図っているため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 ごみゼロキャンペーンの参加者は752名と前期目標を達成し、美化意識の向上を図ることができている。	

総合評価

実績	ごみゼロキャンペーンの実施(平成26年5月24日)		
中間評価との相違点	—		
事業指標(数値指標)	参加者数		
前期(27年度)目標値	600人		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成25年度 752人	平成26年度 715人	平成27年度 環境基本計画実施計画の目標値より

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		739	349	734	734		
財源内訳	一般財源	739	349	734	734		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 海岸だけでなく、二宮町の美化運動推進のため、実施していく必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 美化運動として、町が主導となり推進していく必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 海岸清掃に715人が参加し、美化運動の中核となっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 参加者の保険費用のみで実施している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 県、団体、住民との連携を大切にしながら、二宮海岸の保全と魅力の向上のため、引き続き事業を実施する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	・海岸には、バーベキューごみ、空き缶、ビン、樹脂類などポイ捨てされたごみが多くある。ゴミゼロキャンペーンなど美化運動を推進し、関心のない人や町外の人に対し、引き続き、啓発が必要である。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	海岸清掃等により、美化運動を推進する必要がある。		
今後の方向性	環境意識の高揚を図るため、継続して実施する必要がある。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生活環境課		
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力	
分野別方針	(5) 生物多様性の保全		実施計画事業	1) 美化推進・動植物保全事業 (No.39)	
予算等事業名	動物の保護管理事業				
目的	生物多様性の保全のため、環境意識の高揚を図ることを目的としたゴミゼロキャンペーンを実施する。また町の中心を流れる葛川の美化を図る。 住環境向上のため有害鳥獣対策の実施及び狂犬病予防注射の促進を行う。				
内容	有害鳥獣(アライグマ等)対策を実施することにより生活・農業被害を防止する。また犬の登録及び狂犬病予防事務を行う。				
根拠法令・条例等	狂犬病予防法 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律 犬の登録事務手続き等に関する規則				
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		県獣医師会による物品の共同購入を行うなど、効率化を図っているため			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		狂犬病予防法など法律に基づく事業を実施しているため。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 狂犬病予防注射、有害鳥獣対策は計画通り実施できている。				

総合評価

実績	狂犬病予防注射 ・登録頭数 1,817頭 ・注射済み 1,587頭 ・猶予91頭 有害鳥獣 捕獲数14頭 (内訳 イノシシ 3頭、ハクビシン 3頭、タヌキ 1頭、アライグマ 7頭)				
中間評価との相違点	—				
事業指標(数値指標)	狂犬病予防接種率				
前期(27年度)目標値	100%			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	狂犬病予防法において、予防接種は義務であるため、病気等の理由で接種しない場合を除き、100%を目標とする。	
	91%	92%			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		831	527	848	538		
財源内訳	一般財源	221	88	264	131		
	国庫支出金						
	県支出金	220	86	183	62		
	その他	390	353	401	345		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 狂犬病予防法及び鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律に基づき事業を実施する必要があるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 狂犬病予防法及び鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律に基づき事業を実施する必要があるため。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 日本において、1956年の6頭を最後に狂犬病の報告がない。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 県獣医師会による物品の共同購入を行い、最低限の費用で実施している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 狂犬病を予防し、撲滅することにより公共の福祉の増進を図り、また鳥獣の保護及び狩猟の適正化を図ることにより、生活環境の保全を図ることができた。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も引き続き、狂犬病予防注射の必要性を周知し、狂犬病を予防し、撲滅することにより公衆衛生の向上、公共福祉の増進を図り、また鳥獣の保護及び狩猟の適正化を図ることにより、生活環境の保全を図る。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	狂犬病予防法及び鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律に基づき、事業を実施する必要がある。		
今後の方向性	引き続き、狂犬病の予防及び鳥獣の保護及び狩猟の適正化を図る。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生活環境課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(5) 生物多様性の保全	実施計画事業	1) 美化推進・動植物保全事業 (No.39)
予算等事業名	公害防止対策事業(河川水質・地域要望環境測定)		
目的	生物多様性の保全のため、環境意識の高揚を図ることを目的としたゴミゼロキャンペーンを実施する。また町の中心を流れる葛川の美化を図る。 住環境向上のため有害鳥獣対策の実施及び狂犬病予防注射の促進を行う。		
内容	県条例関係の苦情に迅速、適切に対応し環境保全を図るとともに、各種環境測定等の測定を実施し、町の環境を把握し公害を未然に防止を図る		
根拠法令・条例等	環境基本法、水質汚濁防止法、神奈川県生活環境の保全等に関する条例、二宮町環境基本条例		
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか	
<input type="checkbox"/>	① 検討できる
<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	水質調査項目について、必要最低限の項目に絞り実施しているため。

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか	
<input type="checkbox"/>	① 検討できる
<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	必要最低限の項目に絞り実施しているため。

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 河川水質調査は、計画通り年4回実施予定のうち2回実施し、町の環境状況の把握することができている。	

総合評価

実績	町内4河川8地点で、年4回水質調査を実施 地域要望分については、地域要望がなかったため、未実施		
中間評価との相違点	—		
事業指標(数値指標)	BODの環境基準達成率(測定値が環境基準地内の地点数/測定値数)		
前期(27年度)目標値	100%		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	96%	100%	環境基本計画実施計画の目標値より

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		600	367	532	376		
財源内訳	一般財源	600	367	532	376		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 住民の健康保護及び生活環境を保全するため、環境調査を実施することは必要である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 住民の健康保護及び生活環境に直結するため、実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 河川等の有機物汚染の代表的指標であるBODが年々改善されている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 必要最低限の調査項目に絞り、実施している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 環境調査は、経年変化を確認することが重要である。水質については、年々下水道の普及等により改善されている。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も引き続き、環境調査を実施し、町の環境状況の把握を行う。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持 <input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止			
理由	環境を保全するため環境調査を実施し、状況を把握する必要がある。		
今後の方向性	継続して環境状況を把握する。		

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	生活環境課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(6)循環型社会の推進
実施計画事業	1)ごみ処理広域化推進事業(No.40)

	予算事業名	事業費 執行率(%)	総合評価
01	ごみ処理広域化推進事業	91.0%	A
02	剪定枝資源化施設整備事業	99.8%	A
03			
04			
05			
課題 (箇条書き)	1市2町が連携して、ごみ処理広域化処理に向けて推進する必要がある。		

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	説明	ごみ処理広域化を推進し、安定的、経済的なごみ処理体制の確立を図った。

方向性							
<input checked="" type="checkbox"/>	① 現状維持	<input type="checkbox"/>	② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/>	③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/>	④ 廃止
意見等	剪定枝資源化施設については、平成27年10月稼働に向けて、周辺環境に配慮した施設整備を行う。						

◎評価者[担当主管部長]							
<input checked="" type="checkbox"/>	① 現状維持	<input type="checkbox"/>	② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/>	③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/>	④ 廃止
意見等	廃棄物を安定的に安全で安心して処理するためには、ごみ処理広域化が唯一の手段であるため必要である。						

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生活環境課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(6)循環型社会の推進	実施計画事業	1)ごみ処理広域化推進事業 (No.40)
予算等事業名	ごみ処理広域化推進事業		
目的	平塚市及び大磯町とのごみ処理広域化を推進するため、他市町の広域施設に係る費用負担を行う。また、広域施設である剪定枝資源化施設の計画及び整備を行う。		
内容	ごみ処理広域化推進のため、広域化施設の整備等の費用負担を行う。		
根拠法令・条例等	一般廃棄物処理に係る事務事業の広域化に関する基本協定 ごみ焼却施設の整備運営に関する事務の事務委託に関する規約		
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/> ② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施	
②、③に対する理由			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか	
<input type="checkbox"/> ① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/> ② 削減は困難
理由	他市町への負担金のため、削減は困難である。

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか	
<input type="checkbox"/> ① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/> ② 効率化は困難
理由	定期的な会議を設けて必要かつ十分な協議、調整を実施しているため、今まで以上の効率化は困難である。

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 他市町が実施する事業等においても必要かつ十分な協議、調整が実施できている。	

総合評価

実績	平塚市環境事業センターの建設費、平塚市粗大ごみ破碎処理施設の改修工事費、大磯町リサイクルセンターの調査費等を負担した		
中間評価との相違点	—		
事業指標(数値指標)	—		
前期(27年度)目標値	—		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	—	—	
他市町が行う施設整備等に対する負担を行うものであるため、事業指標は設定できない。			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		165,674	162,971	56,055	50,985		
財源内訳	一般財源	153,974	142,059	42,855	39,643		
	国庫支出金	0	0	0	0		
	県支出金	11,700	20,912	13,200	11,342		
	その他	0	0	0	0		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 安定的、経済的なごみ処理体制を確立するため必要な事業である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 自治体間による協力が必要である。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 応分の負担をすることにより、平成27年度から広域化処理が開始した。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 近隣市町とのごみ処理広域化により、効率的且つ経済的なごみ処理体制が確立できる。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 今後の安定的、経済的なごみ処理体制確立のため、事業推進を行った。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後もごみ処理広域化を推進し、安定的、経済的なごみ処理体制の確立を図る。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	安定したごみ処理のため、広域化処理は必要である。		
今後の方向性	広域化処理の開始に向けて事業を推進する。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生活環境課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(6)循環型社会の推進	実施計画事業	1)ごみ処理広域化推進事業 (No.40)
予算等事業名	剪定枝資源化施設整備事業		
目的	平塚市及び大磯町とのごみ処理広域化を推進するため、他市町の広域施設に係る費用負担を行う。また、広域施設である剪定枝資源化施設の計画及び整備を行う。		
内容	ごみ処理広域化に伴い、広域化施設整備を行う。		
根拠法令・条例等	一般廃棄物処理に係る事務事業の広域化に関する基本協定 剪定枝資源化施設の整備運営に関する事務の事務委託に関する規約		
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/> ② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施	
②、③に対する理由			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか	
<input type="checkbox"/> ① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/> ② 削減は困難
理由	工事等の契約を既に締結しているため削減は困難。

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか	
<input type="checkbox"/> ① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/> ② 効率化は困難
理由	既契約に基づき、整備を進めているため、今まで以上の効率化は困難である。

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 関係官庁等との調整が図られ、予定通り事業推進することができている。	

総合評価

実績	建設工事及び運営事業者の選定及び契約締結、建設用地の購入を行った。		
中間評価との相違点	—		
事業指標(数値指標)	事業進捗率		
前期(27年度)目標値	100%		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
単位:			
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	40%	63%	
事業進捗割合: 調査等計画20%、用地購入10%、事業者選定10%、建設工事60% 平成26年度実績値: 平成26年度建設工事23%完了(40+23)			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		292,737	292,639	88,356	88,148		
財源内訳	一般財源	191,904	137,637	61,427	6,758		
	国庫支出金	20,130	94,202	3,666	26,671		
	県支出金	35,900	16,694	8,600	381		
	その他	44,803	44,106	14,663	54,338		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 ごみ処理広域化の施設であり広域内の資源化促進のため、必要な事業である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 一般廃棄物の処理は自治体が行う必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 平成27年度の施設稼働を目指し、計画通り進んでいる。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 施設整備と施設運営を一体とした発注方式により、経費削減に繋がっている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 循環型社会形成推進交付金の活用や平塚市及び大磯町からの負担金を用いて、事業推進している。引き続き、施設稼働に向けて事業推進していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	平成27年10月稼働に向けて、周辺環境に配慮した施設整備、運営が行えるように詳細設計及び体制整備を行う。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持 <input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止			
理由	ごみ処理広域化を進める上で、必要な施設である。		
今後の方向性	平成27年度の施設稼働に向けて推進する。		

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	生活環境課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(6)循環型社会の推進
実施計画事業	2)3R・3S推進事業(No.41)

	予算事業名	事業費 執行率(%)	総合評価
01	不法投棄防止事業	75.0%	A
02	ごみ減量化・再利用事業(3R・3S推進運動)	85.2%	A
03	一般廃棄物処理事務事業	85.1%	A
04	じん芥収集事業	99.6%	A
05	じん芥運搬処理事業	94.3%	A
06	じん芥受入分別事業	97.4%	A
07	し尿処理事業	93.5%	A
08	ごみ積替施設運営事業	96.5%	A
09	最終処分場施設運営事業	87.7%	A
課題 (箇条書き)	生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図り、快適な生活を確保する必要がある。		

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	説明	地域説明会等の実施により、ごみが減量している。 不法投棄の防止については、不法投棄物を撤去することで、更なる不法投棄物の誘発に対する抑止力となっている。

方向性			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	ごみ処理広域化に伴う分別の変更に対応し、引き続き適正・安全に処理できるように取り組む。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	廃棄物を適正に処理し、良好な住環境を維持するために必要である。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生活環境課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(6)循環型社会の推進		実施計画事業	2) 3R・3S推進事業(No.41)
予算等事業名	不法投棄防止事業			
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。			
内容	町内全域の山岳及び街区における不法投棄物の撤去及び不法投棄の防止を図る。			
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 二宮町廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		必要最低限の実施回数で臨時職員を雇用し対応するだけでなく、職員が現場確認、回収等も行っているため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		必要最低限の実施回数で臨時職員を雇用し対応するだけでなく、職員が現場確認、回収等も行っているため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 不法投棄物を撤去することで、生活環境の保全につながっている。			

総合評価

実績	不法投棄パトロールを52回実施した。			
中間評価との相違点	—			
事業指標(数値指標)	不法投棄回収量			
前期(27年度)目標値	3t			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	環境基本計画実施計画の目標値より
	3.92t	3.04		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		898	656	904	678		
財源内訳	一般財源	898	656	904	678		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 不法投棄は不法投棄した者が処分すべきだが、投棄者が特定できない場合は、町で処分をせざる得ない。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 生活環境保全のため、不法投棄物の撤去等を実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 不法投棄物を撤去することで、更なる不法投棄物の誘発に対する一定の予防効果がある。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 基本的には職員対応で実施している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 不法投棄物を撤去することで、生活環境の保全につながる。また、更なる不法投棄物の誘発に対する一定の予防効果があるため、今後も引き続き実施していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	不法投棄ではないが、分別・収集日の変更により、ごみの出し間違い等による不適正排出の増加が見込まれる。 今後、地域環境推進員とともに分別方法の徹底を図る。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持 <input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	生活環境保全のため、継続して事業を実施する必要がある。
今後の方向性	不法投棄パトロールの実施等により、生活環境を保全する。

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生活環境課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(6)循環型社会の推進		実施計画事業	2) 3R・3S推進事業(No.41)
予算等事業名	ごみ減量化・再利用事業(3R・3S推進運動)			
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。			
内容	ごみの減量化・再利用化を推進し、啓発事業を行う。			
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 二宮町廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		地域説明会など費用をかけず実施しているため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		地域と連携し減量化を図っているため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 17地区で地域説明会を実施し、水分ひとしぼり運動も実施することができている。			

総合評価

実績	ごみ減量化推進協議会 3回、地域環境推進員会議 2回を実施した。 「ごみの分別・収集日が変わる」地域説明会を42回(2,687名参加)実施し、新しいごみの分別方法等について周知した。			
中間評価との相違点	—			
事業指標(数値指標)	1人1日当たりのごみ排出量			
前期(27年度)目標値	838.8g/人・日		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	環境基本計画実施計画の目標値より
	828.9g/人・日	828.0g/人・日		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		11,609	11,370	11,573	9,859		
財源内訳	一般財源	3,419	3,062	1,455	1,455		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	8,190	8,308	10,118	8,404		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図り、快適な生活を確保する必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図り、快適な生活を確保する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 地域説明会と同時に水切りキャンペーンを実施することで目標以上の減量化となった。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 地域説明会は、費用をかけず地区と連携して実施した。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 地域説明会や水切りキャンペーンの実施により、着実にごみが減量している。今後も引き続き、3R・3Sを推進していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	ごみ処理広域化に伴い、ごみの分別・収集日の変更となったため、新しいごみの分別方法の徹底を広報や地区と連携してを推進していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	循環型社会の実現に向けたまちづくりが必要である。		
今後の方向性	地域環境推進員等と連携し、分別の徹底を図る。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生活環境課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(6)循環型社会の推進		実施計画事業	2) 3R・3S推進事業(No.41)
予算等事業名	一般廃棄物処理事務事業			
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。			
内容	一般廃棄物処理に関連した事務を行う。			
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 二宮町廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		一般廃棄物を処理するための事務経費であるため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		一般廃棄物を処理するための事務経費であるため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 一般廃棄物処理事務事業は、計画通りに進んでいる。			

総合評価

実績	ごみの出し方ガイド、ごみのスケジュールシールなどを作成した。また、神奈川県町村清掃行政協議会にて視察等を行った。			
中間評価との相違点	—			
事業指標(数値指標)	—			
前期(27年度)目標値	—			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	一般廃棄物を処理していくための事務費
	—	—		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		891	865	2,217	1,887		
財源内訳	一般財源	885	835	2,213	1,885		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	6	30	4	2		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 一般廃棄物を処理していくための事務費であるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 一般廃棄物を処理していくための事務費であるため。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 一般廃棄物を処理していくための事務費であるため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 出来る限り、職員による印刷、看板の作成等を実施している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 一般廃棄物を処理していくための事務費であり、出来る限り経費をかけず、職員による印刷、看板の作成等を実施している。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	一般廃棄物を処理していくための事務費であるため、今後も継続していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	し尿処理券、ごみスケジュールシール、ごみの出し方・分け方ガイドの作成等、事務事業として必要である。		
今後の方向性	継続して実施する。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生活環境課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(6)循環型社会の推進	実施計画事業	2) 3R・3S推進事業(No.41)
予算等事業名	じん芥収集事業		
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。		
内容	各家庭及び事業所等から排出されるじん芥の収集を行う。		
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 二宮町廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例		
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	工事積算により設計をし、無駄を排除しているため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	ビンの収集運搬委託をじん芥収集運搬委託に統合することで、効率を図ることができる。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 一般廃棄物を確実に収集することで、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図ることができる。	

総合評価

実績	7,830,720kgを収集し、処理施設等へ運搬を行った。		
中間評価との相違点	—		
事業指標(数値指標)	—		
前期(27年度)目標値	—		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	—		適正な一般廃棄物の収集運搬

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		169,869	169,659	175,014	174,323		
財源内訳	一般財源	154,364	155,066	160,040	156,546		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	15,505	14,593	14,974	17,777		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図るため、一般廃棄物の収集は市町村の責務である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図るため、一般廃棄物の収集は市町村の責務である。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 一般廃棄物処理計画に従い、一般廃棄物を収集することで、適正処理することができている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 一般廃棄物を適切に収集、運搬するための適正な費用となっている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 一般廃棄物処理計画に従い、一般廃棄物を収集することで、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図ることができた。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	ごみ処理広域化に伴い、収集日、分別方法を平成27年4月1日から変更した。 変更後においても適正に収集することで、生活環境の保全、公衆衛生の向上を図る必要がある。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	各家庭等から排出される廃棄物を適正に収集する。		
今後の方向性	各家庭等から排出される廃棄物を適正に収集する。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生活環境課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(6)循環型社会の推進		実施計画事業	2) 3R・3S推進事業(No.41)
予算等事業名	じん芥運搬処理事業			
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。			
内容	可燃ごみ等の運搬及び処理の円滑な管理運営を図る。			
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 二宮町廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		ごみ処理広域化により削減される見込みである。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		ごみ処理広域化により効率的なごみの運搬・処理ができる。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 ごみの運搬・処理を適正に実施することができている。			

総合評価

実績	ごみ総処理量 8,805t(処理ベース)		
中間評価との相違点	—		
事業指標(数値指標)	—		
前期(27年度)目標値	—		
単位:	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	—	—	—
一般廃棄物全体の円滑な運搬・処理			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		231,279	217,237	235,989	222,533		
財源内訳	一般財源	218,447	204,041	224,027	210,639		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	12,832	13,196	11,962	11,894		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 一般廃棄物の運搬及び処分は市町村の責務である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 同上	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 一般廃棄物を滞りなく適切に運搬、処分している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 一般廃棄物が適切に運搬、処分されるための適正な費用となっている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 一般廃棄物の運搬及び処分を適切に実施できた。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	町の責務として、今後も適切に一般廃棄物を運搬、処理する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	町内から排出される廃棄物を町外処理施設まで適正に運搬し処理を行う。		
今後の方向性	ごみ処理広域化に伴い処理先等が変更になるが、適正に事業を実施する。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生活環境課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(6)循環型社会の推進		実施計画事業	2) 3R・3S推進事業(No.41)
予算等事業名	じん芥受入分別事業			
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。			
内容	持込みごみ等の円滑な管理運営を図る。			
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 二宮町廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		安全かつ適正に作業を実施するためには、現状維持が必要。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		ごみの分別変更に伴い、作業内容が変わる。効率化を含めて作業内容を変更する。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 <p style="text-align: center;">引き続き安全かつ適正に実施する。</p>			

総合評価

実績	ごみ持込み件数 5,590件 (家庭系5,246件、事業系344件)			
中間評価との相違点	—			
事業指標(数値指標)	—			
前期(27年度)目標値	—			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	持込みごみ等の受入・分別を円滑に行う
	—	—		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		18,640	18,368	18,122	17,654		
財源内訳	一般財源	2,867	1,019	933	0		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	15,773	17,189	17,189	17,654		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 一般廃棄物の処理は町の責務である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 ごみの受入分別作業は、町の責務である一般廃棄物の運搬処理と直結している。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 持ち込みごみを適正に受入、分別している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 適正、安全に受入、分別するために必要な費用で実施している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 費用を抑えながら、適正・安全に事業が実施できている。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	ごみ処理広域化に伴い、分別が変更される部分が出てくるが、それに十分対応し、引き続き適正・安全に実施できるよう取り組む。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	ごみ収集日に出さずに施設に持ち込まれたごみ等を適正に処理する必要がある。		
今後の方向性	継続して適正に受入、分別を行う。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生活環境課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(6)循環型社会の推進		実施計画事業	2) 3R・3S推進事業(No.41)
予算等事業名	し尿処理事業			
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。			
内容	し尿処理施設の円滑な管理運営に努める。			
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、神奈川県生活環境の保全条例			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		点検や補修を定期的に行うことにより、費用を抑えて維持管理している。運転においても節電を意識し、費用を抑えているため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		減少していくし尿汚泥に対し、効率的な運搬・処理を検討していく。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 引き続き、施設の円滑な運営に取り組む。			

総合評価

実績	汚泥受入実績6032. 2kℓ(生し尿345. 9kℓ、浄化槽汚泥5686. 3kℓ) し尿処理施設の水质、臭気、ダイオキシン類の測定を実施			
中間評価との相違点	—			
事業指標(数値指標)	し尿処理施設の水质、臭気、ダイオキシン類測定における基準値適合率			
前期(27年度)目標値	100%			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	放流水45項目、臭気1項目、ダイオキシン類1項目 (47/47=100%)
	100%	100%		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		68,310	62,539	52,036	48,664		
財源内訳	一般財源	65,969	60,533	50,735	47,618		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	2,341	2,006	1,301	1,046		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 生し尿及び浄化槽汚泥の処理は町の責務である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 生し尿及び浄化槽汚泥の処理は町の責務である。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 受け入れた生し尿及び浄化槽汚泥を適正に処理できている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 点検や補修を定期的に行うことにより、費用を抑えて維持管理している。運転においても節電を意識し、費用を抑えることが出来ている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 し尿処理施設の、円滑な管理運営が出来ている。測定結果も良好である。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> 今後も引き続き、施設の円滑な運営に取り組む。 施設の老朽化が進行しているため、計画的に補修、交換、工事等を行うことが必要である。 	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	生し尿及び浄化槽汚泥を適正に処理する。		
今後の方向性	生し尿及び浄化槽汚泥を適正に処理する。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生活環境課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(6)循環型社会の推進		実施計画事業	2) 3R・3S推進事業(No.41)
予算等事業名	ごみ積替施設運営事業			
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。			
内容	ごみ積替施設の適正な運転・管理及び安定した外部搬出を行う。			
根拠法令・条例等	—			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		安全・適正な事業実施のためには現状維持が必要。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		効率を考えて事業を実施しているが、現状以上は難しい。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 引き続き可燃ごみを安全・安定に運搬するため、事業を行っていく。			

総合評価

実績	可燃ごみ外部搬出量 5,095t			
中間評価との相違点	—			
事業指標(数値指標)	—			
前期(27年度)目標値	—			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	ごみ積替施設を適正に運転・管理し、安定した外部搬出を行う
	—	—		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		59,313	55,175	58,093	56,075		
財源内訳	一般財源	59,313	55,175	58,093	56,075		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 可燃ごみ搬出のためには、必要不可欠である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 一般廃棄物の運搬は町の責務である。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 可燃ごみの安定した外部搬出ができています。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 可燃ごみの安定した外部搬出のため、必要な費用である。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 可燃ごみの安定した外部搬出ができています。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	・引き続き安定した可燃ごみの外部搬出を実施するため、適正な管理を行っていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ②改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④廃止
理由	可燃ごみは町外で処理しているため、収集したごみを処理施設まで運搬する大型車両へ適正に積み替える必要がある。		
今後の方向性	継続して、適正に外部搬出を行う。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生活環境課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(6)循環型社会の推進		実施計画事業	2) 3R・3S推進事業(No.41)
予算等事業名	最終処分場施設運営事業			
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。			
内容	最終処分場(埋立は終了)の適正な維持管理を行う。			
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、神奈川県生活環境の保全条例			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		適正な最終処分場の維持管理のためには、現状維持が必要。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		今まで以上の効率化は難しいが、引き続き効率化も含めた維持管理を行う。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 引き続き最終処分場の適正な維持管理を行う。			

総合評価

実績	浸出水処理量(3442.68m ³) 最終処分場浸出水、放流水、地下水の水質、臭気、ダイオキシン類の測定を実施した。			
中間評価との相違点	—			
事業指標(数値指標)	最終処分場の水質、臭気、ダイオキシン類測定における基準値適合率			
前期(27年度)目標値	100%			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	放流水46項目、臭気1項目、ダイオキシン類2項目、地下水45項目(94/94=100%)
	98%	100%		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		23,075	5,783	4,090	3,589		
財源内訳	一般財源	23,075	5,783	4,090	3,589		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 最終処分場の維持管理は町の責務である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 最終処分場の維持管理は町の責務である。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 事業指標に対する目標値が達成でき、適正な維持管理ができた。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 浸出水量に応じた効率のよい運転を心掛けている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 目標値達成のための維持管理を徹底しつつ、事業としては現状維持で実施していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	・引き続き事業指標に対する目標値を達成するため、維持管理方法のチェック、必要に応じた見直し、関係者との連携などを徹底し、適正な維持管理をしていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	最終処分場の適正な維持管理を行う。		
今後の方向性	最終処分場の適正な維持管理を行う。		

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	生活環境課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(7)低炭素社会の形成
実施計画事業	1)地球環境保全事業(No.42)

	予算事業名	事業費 執行率(%)	総合評価
01	省エネルギー・自然エネルギー推進事業	72.7%	B
02	公害防止対策事業(騒音・大気測定)	96.1%	A
03	美化推進事業(地域美化清掃)	89.5%	A
04	公共施設への太陽光設置の推進	—	B
課題 (箇条書き)	公共施設への太陽光発電設備の設置については、公共施設が老朽化しているため設置が困難である。		

総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	説明	グリーンカーテンを役場庁舎で実施し、環境学習を小学校で実施した。節電や自然エネルギー、地球温暖化防止に向けた啓発活動を実施した。

方向性			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	美化清掃については、ごみ袋の配布や回収等の支援について継続する必要がある。太陽光発電設備は、平成27年度に国の補助金を活用し、二宮小学校の屋上へ設置する。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	地球温暖化防止に向け、低炭素社会の実現は重要である。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生活環境課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(7)低炭素社会の形成		実施計画事業	1) 地球環境保全事業 (No.42)
予算等事業名	環境保全推進事業			
目的	低炭素社会の実現をめざし、省エネルギー・自然エネルギーの推進を図るため、啓発や支援を行う。また、二宮町の特徴である空気が綺麗で風通しの良い快適な生活環境向上を図るため騒音大気測定や地域美化清掃の推進を図る。			
内容	低炭素社会の実現をめざし、省エネルギー・自然エネルギーの推進を図るため、啓発や支援を行う。			
根拠法令・条例等	二宮町環境基本条例			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		環境学習及びグリーンカーテン用の消耗品費のみで実施しているため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		経費をかけず、環境学習やグリーンカーテン、自然エネルギーの情報提供などを実施しているため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 グリーンカーテンをホームページなどで啓発することができている。			

総合評価

実績	グリーンカーテンを役場庁舎で実施、小学校において環境学習を1回実施した。また、節電や自然エネルギー、地球温暖化防止に向けた啓発活動を実施した。			
中間評価との相違点	—			
事業指標(数値指標)	地球温暖化防止に向けた啓発回数			
前期(27年度)目標値	2回			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	環境基本計画実施計画の目標値より
	4回	4回		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		29	26	22	16		
財源内訳	一般財源	29	26	22	16		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 子どもの頃からの環境教育は重要であるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	B
	【説明】 グリーンカーテンなど町が実践することで、町民への啓発につながるため。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 グリーンカーテンや環境教育を行うことで、町民への啓発につながっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 職員が講師をしたり、グリーカーテンを作成したりして出来る限り費用を抑えている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 グリーンカーテンや環境学習等を実施しているが、ハード面での自然エネルギーの推進も必要。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	ソフト面だけでなく、グリーンニューディール基金を活用し、平成27年度に二宮小学校へ太陽光発電施設の設置を行う。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持 <input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止			
理由	低炭素社会に向けて、啓発活動が重要である。		
今後の方向性	継続して啓発活動等を実施する。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生活環境課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(7) 低炭素社会の形成		実施計画事業	1) 地球環境保全事業 (No.41)
予算等事業名	公害防止対策事業(騒音・大気測定)			
目的	低炭素社会の実現をめざし、省エネルギー・自然エネルギーの推進を図るため、啓発や支援を行う。また、二宮町の特徴である空気が綺麗で風通しの良い快適な生活環境向上を図るため騒音大気測定や地域美化清掃の推進を図る。			
内容	県条例関係の苦情に迅速、適切に対応し環境保全を図るとともに、各種環境測定等の測定を実施し、町の環境を把握し公害を未然に防止を図る			
根拠法令・条例等	環境基本法、大気汚染防止法、騒音規制法、神奈川県生活環境の保全等に関する条例、二宮町環境基本条例			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input checked="" type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		原則、同じ地点で町内の大気、騒音状況を把握する必要があるため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		原則、同じ地点で町内の大気、騒音状況を把握する必要があるため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 1月に大気・騒音測定を実施する予定である。			

総合評価

実績	町内6箇所で騒音測定と一酸化炭素濃度測定を実施した。一酸化炭素濃度測定においては、6検体すべて環境基準値内であった。騒音測定においては12検体中5検体が環境基準値を超えたが、要請限度値以下であった。			
中間評価との相違点	—			
事業指標(数値指標)	環境基準達成率(測定値が環境基準地内の測定検体数/測定検体数)			
前期(27年度)目標値	100%			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
	単位:			
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	環境基本計画実施計画の目標値より
	83%	72%		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		505	500	519	499		
財源内訳	一般財源	505	500	519	499		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 住民の健康保護及び生活環境を保全するため、環境調査を実施することは必要である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 住民の健康保護及び生活環境に直結するため、実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 原則、同じ地点で環境調査を実施することで、町内の大気、騒音状況を把握することができている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 見積合わせを実施し、業者を選定している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 大気騒音測定を実施した結果、県道、国道において一部環境基準を超える値が検出されたものの要請限度値を超えるものではなく、環境状況の把握のため、今後も継続して測定することにより、経過を観察することが必要である。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も継続して測定することにより、経過を観察する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	環境調査を実施し、騒音等の状況を把握する必要がある。		
今後の方向性	継続して環境調査を実施し、騒音等の状況を把握する。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生活環境課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(7) 低炭素社会の形成		実施計画事業	1) 地球環境保全事業 (No.41)
予算等事業名	美化推進事業 (地域美化清掃)			
目的	低炭素社会の実現をめざし、省エネルギー・自然エネルギーの推進を図るため、啓発や支援を行う。また、二宮町の特徴である空気が綺麗で風通しの良い快適な生活環境向上を図るため騒音大気測定や地域美化清掃の推進を図る。			
内容	環境基本計画を推進し、町民の環境への意識の高揚を図るため、環境講座を始めとした啓発を行なう。			
根拠法令・条例等	二宮町環境基本条例			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		ごみ袋、保険費用のみで実施をしているため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		地区、団体、個人により美化清掃が実施されているため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 美化清掃を実施する地区、団体、個人等に対しボランティア袋を配布し、ごみを回収するなどの支援を行っている。			

総合評価

実績	60件の地域美化清掃が行われた。			
中間評価との相違点	—			
事業指標(数値指標)	地域美化清掃件数			
前期(27年度)目標値	50件			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	環境基本計画実施計画の目標値より
	60件			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		323	275	210	188		
財源内訳	一般財源	323	275	210	188		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 快適な生活環境の向上のため必要である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 主体は住民であるが、ごみ袋の配布や回収など支援については町が主体となる必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 平成26年度は延べ8,630人が地域清掃に参加した。地域清掃により、環境美化が図られている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 地区へ地域清掃実施を呼びかけ、美化清掃に係る費用は、ごみ袋、保険費用のみで実施をしている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 地域の主体性を尊重し、支援を行うことで、地域を自分たちで清掃するという意識が清掃件数からも高まっていると考える。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も地域美化環境向上のため、ごみ袋の配布など町からの支援を継続していく必要がある。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	地域が主体となり清掃を実施することで、地域美化環境の向上が図られている。		
今後の方向性	ごみ袋の配布等、支援を継続する。		

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	下水道課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(8) 公共下水道の整備と管理
実施計画事業	1) 公共下水道事業 (No.43)

	予算事業名	事業費 執行率 (%)	総合評価
01	下水道運営経費	95.5%	A
02	下水道施設管理経費	99.0%	A
03	公共下水道整備事業	97.0%	A
04	酒匂川流域下水道事業	100.0%	A
05			
課題 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・公債費の財源確保、使用料の適正化 ・下水道接続率の更なる向上 ・地方公営企業法適用の検討 ・市街化調整区域の排水処理方法の検討 		

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		A
	説明	下水道中期経営計画に基づき適正な進行管理を行っている。	

方向性							
<input checked="" type="checkbox"/>	① 現状維持	<input type="checkbox"/>	② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/>	③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/>	④ 廃止
意見等	接続率向上を目指し、下水道経営の健全化を図るため、下水道使用料の見直し及び公営企業法の適用の検討を行っていく。						

◎評価者[担当主管部長]							
<input checked="" type="checkbox"/>	① 現状維持	<input type="checkbox"/>	② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/>	③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/>	④ 廃止
意見等	下水道経営の効率化と経営基盤の強化を図りつつ、酒匂川流域関連二宮公共下水道全体計画に基づき、公共下水道の整備促進と浸水の防除を図ると共に、下水道未整備地区における汚水処理の早期概成を目指して、下水道アクションプランを策定し事業推進に努めていきます。						

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	下水道課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力				
分野別方針	(8) 公共下水道の整備と管理		実施計画事業	1) 公共下水道事業 (No.43)				
予算等事業名	下水道運営経費							
目的	下水道運営経費は下水道運営審議会を開催し、適正な使用料収入確保のため検討、また上下水道料金一括納付業務委託を行う事で、確実な下水道使用料の徴収を図ります。							
内容	受益者負担金及び使用料業務をはじめ下水道の普及促進等により、下水道事業の円滑な運営を図る							
根拠法令・条例等	都市計画法、下水道法、二宮町下水道条例、同施行規則等							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		国が進める下水道事業の公営企業法の導入に伴う委託費や下水道使用料改正に伴う下水道運営審議会回数増に伴う委員報酬、下水道使用料増に伴う消費税の増などが見込まれる。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		接続率の向上を図ることにより使用料収入の増にも繋がるため、引続き個別訪問等により接続率の向上を図る。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 計画未実施のため継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 下水道事業の適正な運営を図るためには、収入の確保は重要であり下水道使用料の適正化、接続率の向上を図るため事業を引き続き実施する				

総合評価

実績	平成25年度目標値 : 73.6%				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	水洗化率				
前期(27年度)目標値	74.4			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
	単位:				
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	二宮町下水道事業中期経営計画	
	73.1	73.3			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		21,228	20,155	18,449	17,614		
財源内訳	一般財源	4,941					
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	16,287					

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 公共下水道は快適な生活環境の確保、公共用水域の水質保全や浸水対策といった重要な役割をはたしており、円滑な事業運営を図る必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 下水道事業は、快適な生活環境の確保、公共用水域の水質保全や雨水排除による浸水の防除などの役割を担っているため町主体の事業として行わなければならない。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 個別訪問等を行うことにより、水洗化率の向上につながっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 水洗化率向上のため、個別訪問等を実施している	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 下水道中期ビジョン、中期経営計画に基づき進捗状況や進行管理を行っている	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	維持管理技術については、技術革新が日進月歩となっていることから、維持管理に伴う新技術情報等に注視し、低コストが図れる手法を検討する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	下水道経営の基盤強化には収入の確保が重要であり、水洗化率の向上と下水道使用料の適正化が必要であるため事業を引き継ぎ実施していく。		
今後の方向性	下水道使用料の適正化には、町民に下水道事業の経営状況を分かり易く説明し、理解していただく必要がある。そのため、地方公営企業法の適用に向けた検討を行う。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	下水道課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力				
分野別方針	(8) 公共下水道の整備と管理		実施計画事業	1) 公共下水道事業(No.43)				
予算等事業名	下水道施設管理経費							
目的	下水道施設管理経費は、整備済みの下水道施設の維持管理を実施します。							
内容	下水道施設の保守点検及び修繕を行い機能の維持に努める。また下水道台帳整備を実施する。							
根拠法令・条例等	都市計画法・下水道法							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
① 計画どおりに進捗している	② 計画より遅れている	③ 未実施	
②、③に対する理由			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
① 検討できる	② 削減は困難		
理由	公共下水道の整備が拡充されることに伴い、公共下水道施設が増加すること管理費は増加する。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
① 検討できる	② 効率化は困難		
理由	維持管理に関しては、新技術の導入等により検討ができる。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 計画未実施のため継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 現在の施設は老朽化等による損傷が目立たなく、最小限で維持管理を適切に行っている。	

総合評価

実績			
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)	0		
前期(27年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
単位:	下水道施設の維持管理においては、施設の老朽度や損傷の発生に伴い実施するものであり、目標値の設定は困難である。また、台帳については整備済箇所を台帳に毎年反映することとなる。		
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		114,185	105,627	109,405	108,324		
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	114,158	105,627				

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 整備された下水道施設は、広範囲にあり特殊性であるため。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 維持管理については、新たな手法や情報のが必要となり、近隣市町との連携が必要である。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 整備後の施設老朽度が浅いため、深刻な問題となっていない。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 施設の老朽度が浅く、最小限の対応となっている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 維持管理については、今後の施設老朽度等の要因により、課題が出てくるため、現在では良好な状況が維持できている。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	維持管理技術については、技術革新が日進月歩となっていることから、維持管理に伴う新技術情報等に注視し、低コストが図れる手法を検討する。	

◎評価者[担当主管課長]

	① 現状維持	② 改善して町が実施	③ 改善して町以外が実施	④ 廃止
理由	快適な生活環境を保つため下水道施設の維持管理を継続する。			
今後の方向性	下水道管渠は、布設後30年経過頃より老朽化が進み道路陥没事故等が増加するといわれている。今後、予防保全的対策をとるとともに、計画的かつ効率的な老朽化対策の策定が必要である。			

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	下水道課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力				
分野別方針	(8) 公共下水道の整備と管理		実施計画事業	1) 公共下水道事業(No.43)				
予算等事業名	公共下水道整備事業							
目的	公共下水道整備事業は計画的な整備を実施、公共用水域の水質改善を図ります。							
内容	山西汚水幹線および枝線整備(山西・百合が丘)を実施。 雨水整備(北新道地区)を実施する。							
根拠法令・条例等	都市計画法・下水道法							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている
		<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	現在もコスト削減対策を取入れ整備実施しており、近年の物価上昇が続いている状況なので経費削減は困難である。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	現在、整備完了した地区においては、翌年度に供用できるよう効率の良い整備を実施し、公共下水道の効果を早期に発揮できるよう行なっている。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 計画未実施のため継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 公共下水道事業認可期間区域の整備が着実に向上している。	

総合評価

実績			
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)	整備率		
前期(27年度)目標値	397.0ha		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
単位:			
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	373.2ha	377.9ha	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		238,624	235,137	298,321	289,265		
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金	95,800	95,800				
	県支出金						
	その他	142,824	139,337				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 住民生活の基盤整備の一部であり、公共水域の水質改善を図るため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 公共下水道処理等に関連する神奈川県や近隣市町と連携を図る必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 下水道整備により、各家庭の排水設備の接続率が向上している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 工事発注においては、コスト低減等の工夫を図っている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 事業認可における、整備目標に向け効率の良い整備推進を図り、町民の意識が公共水域の改善につながっている。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	維持管理技術については、技術革新が日進月歩となっていることから、維持管理に伴う新技術情報等に注視し、低コストが図れる手法を検討する。	

◎評価者[担当主管課長]

	① 現状維持	② 改善して町が実施	③ 改善して町以外が実施	④ 廃止
理由	公共下水道は快適な生活環境の確保、公共用水域の水質保全や浸水対策といった重要な役割をはたしているため、事業を引き継ぎ実施していく。			
今後の方向性	今後、市街化調整区域の排水処理方法について検討し方向性をだす必要がある。			

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	下水道課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力				
分野別方針	(8) 公共下水道の整備と管理		実施計画事業	1) 公共下水道事業(No.43)				
予算等事業名	酒匂川流域下水道事業							
目的	流域下水道事業は酒匂川流域下水道関連自治体として建設事業・維持管理事業における本町分を負担します。							
内容	流域下水道関連自治体として酒匂川流域下水道事業(建設事業・汚泥処理建設事業)における本町分を負担する							
根拠法令・条例等	—							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている
		<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	負担割合に応じた負担をするものであり、酒匂川流域下水道施設の老朽化に伴う改築更新、事業区域の編入など酒匂川流域下水道全体の事業費が増が見込まれるため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	流域関連市町で構成する協議会において、他市町と連携し効率化を図る。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 計画未実施のため継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 酒匂川流域下水道事業に関し、関連市町が汚水排水量に応じた負担をするものである。	

総合評価

実績	酒匂川流域下水道事業に関し、関連市町で汚水排水量に応じた負担を行った。		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)	0		
前期(27年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
単位:			
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度
流域下水道関連自治体として酒匂川流域下水道事業における本町分を負担するものである			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		341	294	465	465		
財源内訳	一般財源	41	294				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	300					

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 流域下水道関連自治体として酒匂川流域下水道事業における本町分を負担するものである	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 神奈川県が事業主体であり、流域関連市町が酒匂川流域下水道事業に関し汚水排出量に応じた負担をするものである	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 流域下水道関連自治体として酒匂川流域下水道事業における本町分を負担している	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 流域下水道関連自治体として酒匂川流域下水道事業における本町分を負担するものである	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 神奈川県が事業主体であり、流域関連市町が酒匂川流域下水道事業に関し汚水排出量に応じた負担をするものである	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	維持管理技術については、技術革新が日進月歩となっていることから、維持管理に伴う新技術情報等に注視し、低コストが図れる手法を検討する。	

◎評価者[担当主管課長]

	① 現状維持	② 改善して町が実施	③ 改善して町以外が実施	④ 廃止
理由	流域下水道のスケールメリットが活かされており、事業を引き継ぎ実施していく必要がある。			
今後の方向性	今後も、他の流域関連市町との連携を図り、負担の軽減を図っていく。			

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	都市整備課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(9)公園・広場の充実と適切な管理運営
実施計画事業	1)公園整備・管理事業(No.44)

	予算事業名	事業費 執行率(%)	総合評価
01	公園等維持管理運営経費	98.7%	B
02	公園等整備事業	99.5%	A
03			
04			
05			

課題 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> 公園愛護会等の地域ボランティアの高齢化。 新規の公園設置などによる維持管理の増加。 住民要望や施設維持のための予算確保。
--------------	--

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	説明	安全かつ町民の憩いの場として、適切な公園施設の維持管理に努め、公園愛護会等の地域ボランティアの推進を検討していく必要がある。

方向性			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	公園施設の定期又は随時点検を今後も実施し、利用者の安全確保を最優先に考える。また、維持管理を削減していくために、既存公園の利用状況を確認し、利用が少ない公園は廃止するなど、公園の統廃合に向けた見直しに着手する。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	公園施設等に関してはニーズが多岐にわたり維持管理などの対応が十分でないのが実情である。近年の社会情勢の変化により、公園利用者が減少傾向にあり、今後の公園継続管理について住民意見を十分に聴きながら最も有効な利活用策について検討をしていく。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市整備課		
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力	
分野別方針	(9) 公園・広場の充実と適切な管理運営		実施計画事業	1) 公園整備・管理事業(No.44)	
予算等事業名	公園等維持管理運営経費				
目的	都市公園、児童遊園地等施設の維持管理を継続的に実施し、施設を整備し利用者の安全を図り適切な公園運営を行なう。				
内容	都市公園、児童遊園地等の施設や設備の維持管理経費				
根拠法令・条例等	都市公園法				
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
			<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	吾妻山公園シバザクラ園の除草作業に一般ボランティアを募集し、平成26年9月より活動を行なっている。今後も公園愛護会等の地域ボランティアを推進し、経費削減を図ることはできるが、新たな公園として、平成27年4月に(仮称)二宮風致公園が開園することもあり、経費の削減は困難である。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	公園や緑地など公園愛護会等で管理している箇所を増やすため、ボランティアの募集等を広報で周知し、管理区域を拡大する必要がある。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				B
	【説明】 安全かつ町民の憩いの場として、適切な公園施設の維持管理に努め、ボランティアの推進を検討していく必要がある。				

総合評価

実績	公園、児童遊園、広場の施設の修繕等の維持管理 随時 遊具の日常点検・定期点検の実施 適宜				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	-				
前期(27年度)目標値	-				
単位:	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	保全・管理等については、目標数値の設定は困難である。	
	-	-			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		74,969	73,845	81,998	80,956		
財源内訳	一般財源	66,943	67,082	73,872	72,339		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	8,026	6,763	8,126	8,617		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 遊具の定期点検及び草刈り等の維持管理業務は、公園内で利用できる施設の安全性の確保のため、町単独費で実施する必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 地区の愛護会で草刈りなどの維持管理業務を行っており、地区で行える業務があるが、点検など、人災に関わるものがあるため、町で行う必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 適正な維持管理を行なっているが、今後は専門的な遊具点検の実施が必要になる。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 公園や緑地などは地区で管理している箇所もあり、今後も協力を得る必要がある。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 安全かつ町民の憩いの場として公園施設の維持管理に努める必要があり、引き続き事業を実施する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	定期又は随時点検を今後も実施し、利用者の安全確保を最優先に考える。また、ラディアン花の丘公園の遊具の監視などの新たな施設の維持管理や樹木等の適切な維持管理を効率よく実施することを考える必要がある。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input checked="" type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	安全かつ町民の憩いの場として公園施設の維持管理に努める必要があり、引き続き事業を実施するが、草刈り等、簡易かつ専門性を要しない維持管理について、一部地域で実施されている「公園愛護会」等ボランティア活動を積極的に導入することで、経費削減を図っていきたい。		
今後の方向性	継続的な公園施設の維持管理及び「公園愛護会」等地域ボランティア活動の推進を検討する。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市整備課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(9)公園・広場の充実と適切な管理運営		実施計画事業	1)公園整備・管理事業 (No.44)
予算等事業名	公園等整備事業			
目的	都市公園、児童遊園地等施設の維持管理を継続的に実施し、施設を整備し利用者の安全を図り適切な公園運営を行なう。			
内容	都市公園、児童遊園地等の施設や設備を整備充実する			
根拠法令・条例等	都市公園法			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		(仮称)二宮風致公園の整備が平成26年度で完了する予定だが、次年度以降も吾妻山公園の入園ルートの検討及び整備があり、削減は困難である。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		公園整備は優先順位を決め、緊急性が高いものから実施し、国の交付金を活用していく必要がある。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 公園利用者の安全確保を図り、国の交付金を活用し実施している。			

総合評価

実績	(仮称)風致公園の整備:ふわふわドーム1基、複合遊具1基、園路改修、水路改修			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	-			
前期(27年度)目標値	-			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	H27以降の整備は未定であり、目標数値の設定は困難である。
	-	-		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		152,300	151,465	75,000	75,671		
財源内訳	一般財源	81,800	80,465	40,000	40,671		
	国庫支出金	70,500	71,000	35,000	35,000		
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 (仮称)風致公園の園路整備を行なうことにより、利用者の安全を確保することができるため、事業を実施する必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 公園等の利用者の安全確保のため、町で行う必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 バリアフリー化を中心に、各種設備が計画的に整備されている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 社会資本整備総合交付金等を有効に活用している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 (仮称)風致公園整備は国の交付金を活用し、市街地の貴重な緑地保全が図られ、災害時の避難場所にも活用ができ、効率的な事業である。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	吾妻山公園については、車両が出入り出来る通路整備や駐車場整備などを検討していく必要がある。(仮称)風致公園については、H26も引き続き整備を行ない、自然環境の保全に努める。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	今後も必要に応じて整備を推進する。		
今後の方向性	町内の公園、児童遊園地、こどもの広場について、統廃合に向けた見直しに着手する。その結果により必要に応じた公園整備を推進していく。		

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	都市整備課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(10)緑地の保全と緑化の促進
実施計画事業	1) 自然保護事業(No.45)

	予算事業名	事業費 執行率(%)	総合評価
01	緑地等維持管理経費	96.6%	B
02			
03			
04			
05			

課題 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・民間緑地の移管などによる維持管理費の増加。 ・自然保護奨励金の対象地が減少している。 ・保存樹木が年々減少している。
--------------	---

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	説明	町から保存樹木の補助金、県から自然保護奨励金を交付し、緑地の保全に努めているが、今後、民間緑地が町へ寄付され緑地が増加することに対し、維持管理方法を検討する必要がある。

方向性			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	緑地の保全及び維持管理のために、指定区域内の山林等の所有者に自然保護奨励金を交付し管理しているが今後も保全のため奨励金の交付が必要である。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	市街地等に残る貴重な緑を保全するとともに、自然保護を奨励し緑化を促進するうえで、事業継続は必要である。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市整備課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(10) 緑地の保全と緑化の促進		実施計画事業	1) 自然保護事業(No.45)
予算等事業名	緑地等維持管理経費			
目的	町管理の緑地等の維持管理を実施し、民有地の樹木の保全に助成を行ない樹木の保全を図る。			
内容	緑地等の維持管理や樹木の保全に係る経費			
根拠法令・条例等	都市緑地法、緑の基本計画、二宮町緑の保全及び緑化の推進に関する要綱			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		県住宅供給公社の緑地の移管により、緑地管理区域が増えるため削減は困難である。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		県が指定区域内の山林等の所有者に対し交付する自然保護奨励金を有効に活用している。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			B
	【説明】 町から保存樹木の補助金、県から自然保護奨励金を交付し、緑地の保全に努めているが、今後、緑地が増加することに対し、維持管理方法を検討する必要がある。			

総合評価

実績	自然保護奨励金の交付件数: 2件 自然保護奨励金により保護されている緑地の面積: 45,160㎡			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	自然保護奨励金制度の対象面積			
前期(27年度)目標値	80,000㎡			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
単位:				
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	毎年、保安林等所有者の維持が困難な状況により、対象地が減少しているため、現在の実績値である80,000㎡を維持することを目標とする。
	87,484㎡	45,160㎡		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		3,234	2,818	3,443	3,327		
財源内訳	一般財源	3,420	2,804	3,430	3,314		
	国庫支出金						
	県支出金	14	14	13	13		
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 町内各所の植栽の維持管理業務は、周辺住宅の防災のため、町単独費で実施する必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 草刈りなどの維持管理業務は、近隣周辺の防災に関わるものがあるため、町で行う必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 市街地内にある緑地の保全に努めている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 県が指定区域内の山林等の所有者に対し交付する自然保護奨励金を有効に活用している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 緑の基本計画に基づく「緑の確保目標」の達成に向けて事業に取り組んでいるが、具体的な取組みを示す実施計画や指針を策定し、計画的に取り組む必要がある。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	緑地の保全及び維持管理のために、指定区域内の山林等の所有者に自然保護奨励金を交付し管理しているが、今後も保全のため、奨励金の交付が必要である。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	町が所有している緑地については、今後も継続的に維持管理を実施することで町内の緑地保全に努める。また、民有緑地についても保全を推進するよう努めていく。		
今後の方向性	緑地の保全及び維持管理のために、指定区域内の山林等の所有者に自然保護奨励金を交付し管理しているが、今後も保全のため、奨励金の交付が必要である。		

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	都市整備課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(10)緑地の保全と緑化の促進
実施計画事業	2) 緑と花いっぱい推進事業 (No.46)

	予算事業名	事業費 執行率 (%)	総合評価
01	緑化推進事業	99.9%	B
02			
03			
04			
05			
課題 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・植栽後の水やりなど、継続してボランティアをお願いする必要がある。 ・花苗代の費用が多額のため、コスト削減を図る必要がある。 		

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	説明	花いっぱい運動は、植栽の維持管理をボランティア活動によって実施され、事業コストは軽減されているが、今後も維持していくためには更なるコスト削減を図る必要がある。

方向性			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	従来、協働で行っていたボランティア等の高齢化により、参加団体、ボランティア数が減じていることから、ボランティア参加者の増加を目指した上で現状を維持し、町内の緑化に努めたい。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	花いっぱい運動の植栽による緑化推進については、実施方法やコスト削減など見直しの検討をしていく。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市整備課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(10) 緑地の保全と緑化の促進		実施計画事業	2) 緑と花いっぱい推進事業 (No.46)
予算等事業名	緑化推進事業			
目的	町内の花壇や公共施設に花苗等を植栽することにより、住民意識の高揚を図る。			
内容	都市環境の緑化及び住民の緑化意識の高揚を図る			
根拠法令・条例等	二宮町緑の保全及び緑化の推進に関する要綱			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		ボランティアの方に花苗の植栽をお願いしており、肥料と花苗代の費用のみとなっているため、削減は難しいが、花木を植え花苗を減らす方法などを検討する必要がある。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		緑化を推進するため、最低でも年2回の花いっぱい運動を行なう必要がある。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			B
	【説明】 花いっぱい運動は、植栽の維持管理をボランティア活動によって実施され、事業コストは軽減されているが、今後も継続していくためには、更なるコスト削減を図る必要がある。			

総合評価

実績	箇所数: 55箇所 6月21日 マリーゴールド 1,964株 ベゴニア 1,964株 11月29日 パンジー 1,870株 ビオラ 1,870株 シロタエギク 748株			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	植栽箇所数			
前期(27年度)目標値	55箇所			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	町内公共施設及び花壇の箇所数
	55箇所	52箇所		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,473	1,452	1,500	1,499		
財源内訳	一般財源	1,437	1,394	1,423	1,422		
	国庫支出金						
	県支出金	36	58	77	77		
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 花いっぱい運動は、ボランティアが年2回、街かどや公共空地に花苗の植栽と維持管理を実施し、町内の緑化に努めることができる。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	B
	【説明】 花いっぱい運動は、自治会やボランティアの方による協働作業であり、町が主導となり推進していく必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 町内の緑化が確保することができている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 ボランティアの方を活用することで、コストの軽減が図れている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 花いっぱい運動は、植栽の維持管理をボランティア活動によって実施され、事業コストは軽減されているが、今後も継続していくためには、花の種から苗を育成するなど、更なるコスト削減を図る必要がある。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	従来、協働で行なっていたボランティア等の高齢化により、参加団体、ボランティア数が減じている。また、海岸線の保存樹木(主に松)が宅地の造成・枯死により減少している。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持 <input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止			
理由	従来、協働で行なっていたボランティア等の高齢化により、参加団体、ボランティア数が減じていることから、ボランティア参加者の増加を目指した上で現状を維持し、町内の緑化に努めたい。		
今後の方向性	ボランティア参加者の増加、地域活動の推進を図る。		

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	産業振興課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(10) 緑地の保全と緑化の促進
実施計画事業	3) 松くい虫被害対策自主事業 (No.47)

	予算事業名	事業費 執行率 (%)	総合評価
01	松くい虫被害対策自主事業	91.4%	B
02			
03			
04			
05			

課題 (箇条書き)	・国庫補助金が満額交付されずに、減額調整された
--------------	-------------------------

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	説明	計画的に松の保全を実施していることにより、松枯れによる伐採処分数が減少している。事業効果が認められる。

方向性			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	松の植栽普及については、県あるいは町が推進した経緯があるため、民間等に移行することは難しい。 また、事業を推進するために、特定財源の確保を図っていく。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	松枯れ被害防止対策及び松の補植は、海岸線保全の観点から、事業継続は必要である。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	産業振興課		
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力	
分野別方針	(10) 緑地の保全と緑化の促進		実施計画事業	3) 松くい虫被害対策自主事業 (No.47)	
予算等事業名	松くい虫被害対策自主事業				
目的	松の枯死の原因となる松くい虫の被害を防止するとともに、抵抗性松の植栽により、松の保全を図る。				
内容	松の枯死の原因となる松くい虫の被害木を駆除し、被害の拡大を防止する。				
根拠法令・条例等	神奈川県松くい虫被害対策事業推進計画 二宮町松くい虫被害対策自主事業地区実施計画				
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
			<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		実績をベースに、県の計画に沿って町の計画を策定し、事業実施しているため。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		現状ですでに効率化が達成されている状況のため。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 引き続き、実施計画に沿って事業を進めていく				

総合評価

実績	町内被害松2本伐倒(山西地内)、樹幹注入による健全松の防除(アンプル数400本・実施松90本) 抵抗性松植栽(10本)				
中間評価との相違点	—				
事業指標(数値指標)	抵抗性松の植栽本数				
前期(27年度)目標値	単位:			累計30本	
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
	10本	10本		植栽実施場所の減少に伴い、平成19～23年度中に松伐倒実績のある民有地の地権者へ植栽本数希望のアンケートを送付。結果、46本の植栽希望が得られ平成25～29年度中に植栽を予定している。	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,451	1,033	1,282	1,172		
財源内訳	一般財源	980	347	357	517		
	国庫支出金						
	県支出金	471	686	925	655		
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 県および町の計画に松の保全が定められているため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	B
	【説明】 松の適切な保全及び植栽のため、専門業者への委託が必要。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 防除の継続により被害木の本数は減少しており一定の成果を上げている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 県・国の補助活用により町の負担は減っている。薬剤の残効期間を元に防除計画を策定している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 計画に沿った保全、植栽行っており、今後も費用対効果を念頭に置きながら実施していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・樹幹注入事業における更なる費用削減に係る検討。 ・県補助金が廃止(または休止)となった場合の、事業継続について。 	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	松の保全を行うためには町が主体となって推進する必要がある。		
今後の方向性	事業を継続するために特定財源の確保を図る。		

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	町民課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(11)町民活動創出支援
実施計画事業	1)町民活動創出支援事業(No.48)

	予算事業名	事業費 執行率(%)	総合評価
01	町民活動推進事業(町民活動推進委員会、協働まちづくり補助金)	89.3%	A
02			
03			
04			
05			
課題 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・新規の町民活動団体の発掘、既存団体の育成支援。 ・団体の組織・活動基盤の強化につながる支援策の充実。 		

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	説明	町民活動団体が自主的・自発的に行う公益的活動に対して支援を行うことにより、団体の活性化と自立が図られるので、今後も継続すべき事業であるが、支援の方法、内容等については改善の余地がある。

方向性			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	新しい活動団体の育成について支援するほか、既存の団体についても補助金終了後も自主運営が継続できるようソフト面の支援策を充実させる。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	活動団体の掘り起こし方法や支援策及び補助金の支給内容について検討が必要である		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	町民課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力				
分野別方針	(11)町民活動創出支援		実施計画事業	1)町民活動創出支援事業(No.48)				
予算等事業名	町民活動推進事業(町民活動推進委員会、町民活動推進補助金)							
目的	町民活動の自主的な活動の支援のため補助金の交付や、町民活動団体の活動の支援を行う。							
内容	二宮町町民参加活動推進条例に基づき、補助金の交付やボランティア団体の活動支援等を行う。							
根拠法令・条例等	二宮町町民活動推進条例							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実行計画に示す事業内容どおりに進捗しているか <input type="checkbox"/>			
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか <input checked="" type="checkbox"/>			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	委員の出席報償費や募集型の補助金のため		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか <input type="checkbox"/>			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	※町民活動推進委員による補助内容の見直しを行う。また、より多くのボランティア団体に手を差し伸べる事が出来るように告知のやり方や手順等を検討している。また、町民活動推進補助金については申込にて行っているため、現状の予算を削減するのは困難		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 町民活動推進補助金内容の見直しを行い、幅広くボランティア団体に補助が行えるようにしていく必要があるため。	

総合評価

実績	平成26年度 補助金交付団体「新しい二宮・イメージづくりプロジェクト」「二宮災害ボランティアネットワーク」「二宮菊友会」「青少年を育むコンサートの会」		
中間評価との相違点	—		
事業指標(数値指標)	補助金交付団体数		
前期(27年度)目標値	6団体		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】 補助金の予算額が100万円です。スタート支援補助金上限額10万円・ステップアップ支援補助金上限額30万円 ステップアップ支援団体が2団体60万円・スタート支援団体が4団体で40万円 計100万円の積算になります。
単位:			
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	2団体	4団体	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,447	533	989	883		
財源内訳	一般財源	1,447	533	989	883		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 町民の自主活動に対する支援を行うために、町が条例を策定し、関わる事は妥当である。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	C
	【説明】 町民活動推進委員会にて会議等を進めており、町民活動については、町民や専門的な方の目で見て進めることにより、実際に補助金が必要とされる団体を見る必要がある	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 自主的に活動している町民活動団体に支援を行い、活性化と自立を図っていく。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 二宮町町民活動推進条例に基づき組織されており、効率的な運用がされている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 町民活動団体が、自主的・自発的に行う公益活動に対して支援を行い、団体の活性化と自立が図られる。	
今後の方針 (議題・意見等を箇条書き)	今まで支援した団体の中には、支援終了後に活動が休止した団体も有る中で、支援が終了しても町民活動団体が自主運営が出来ように指導が必要である。	

◎評価者[担当主管課長]

◎評価者[担当主管課長]	
	① 現状維持 ② 改善して町が実施 ③ 改善して町以外が実施 ④ 廃止
理由	町民活動団体をスタート、ステップアップの2段階で支援することは非常に有効であり、団体の発掘、育成面において成果は出ている。
今後の方向性	組織的に小さな活動団体がほとんどなので、マネジメント力、資金面での問題が多い。そのあたりをいかに行政として支援していくかが今後の課題である。

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	福祉課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(12)人権・平和の推進
実施計画事業	1)人権啓発活動事業(No.49)

	予算事業名	事業費 執行率(%)	総合評価
01	人権啓発活動事業	70.9%	A
02	男女共同参画社会推進事業	100.0%	A
03	人権教育推進事業	80.7%	A
04			
05			
課題 (箇条書き)	・事業推進に向けた関係団体等との連携		

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	説明	全町的な研修会の開催、町職員への研修の実施により徐々に人権に対する認識が深まりつつあるため、今後も継続して実施する。

方向性			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	町の責務として人権意識の向上に継続して努めていく必要がある。同様に継続して実施する。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	人が幸せな生活を送ることが出来るよう、社会から与えられた権利や自由などを守るための啓発活動を町が行うことは大変重要であり、今後も、幅広い年齢層に対して継続して実施する必要性がるとされる。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	福祉課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力				
分野別方針	(12) 人権・平和の推進		実施計画事業	1) 人権啓発活動事業 (No.49)				
予算等事業名	人権啓発活動事業							
目的	人権啓発キャンペーンの実施や人権関係講演会を実施することにより、「人権」に対する町民一人ひとりの意識高揚を図る。							
内容	人権問題に対する町民の認識と理解をより一層深めるため、講演会等の実施をする。また、対応団体の啓発事業等に協力・参加し認識を深める。							
根拠法令・条例等	—							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		研修会は費用をかけずに実施している。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		全町的な研修会の開催、町職員への研修の実施により徐々に人権に対する認識が深まりつつあるため、今後も継続して実施する。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 町の責務として人権意識の向上に継続して努めていく必要がある。							

総合評価

実績	ふれあい福祉大会、人権週間内での啓発物品の配布及び人権問題研修会の開催									
中間評価との相違点	—									
事業指標(数値指標)		講演開催回数								
前期(27年度)目標値		1回				【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
単位:										
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度							
	—	1回								

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費	237	170	237	168		
財源内訳	一般財源	153	84	156	87	
	国庫支出金					
	県支出金	84	84	81	81	
	その他					

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町民の人権問題に対する認識と理解をより一層深めるため、町で実施する必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 人権問題に対する認識を継続的に啓発していく必要があるため、町が主導となって推進していく必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 町主催の人権研修会では多くの方から人権への理解についての回答をいただいております、事業の推進に繋がっております。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 研修会は費用をかけずに実施している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 全町的な研修会の開催、町職員への研修の実施により徐々に人権に対する認識が深まりつつあるため、今後も継続して実施する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	・事業推進に向け、今後も関係各課、関係団体と連携をしていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	町の責務として人権意識の向上に継続して努めていく必要がある。		
今後の方向性	同様に継続して実施する。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	企画政策課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力				
分野別方針	(12) 人権・平和の推進		実施計画事業	1) 人権啓発活動事業 (No.49)				
予算等事業名	男女共同参画社会推進事業							
目的	人権啓発キャンペーンの実施や人権関係講演会を実施することにより、「人権」に対する町民一人ひとりの意識高揚を図る。							
内容	男女共同参画プラン及び実施計画を基に、計画の効率的・効果的な推進を図る。							
根拠法令・条例等	男女共同参画基本法							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		委員の出席報償費であるため。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		町のイベントと合わせた啓発活動を実施することにより、事業の効率化を図ることができる。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				B
	【説明】 男女共同参画推進事業は計画通り進んでいるが、男女共同参画社会に向けた啓発をより進めていく必要があるため。				

総合評価

実績	推進連絡会の開催(第1回・・・平成26年7月3日、第2回・・・平成27年3月24日)				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	推進連絡会開催回数				
前期(27年度)目標値	2回			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	第2次にのみや男女共同参画プランの目標値より	
	2回	2回			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		48	48	48	39		
財源内訳	一般財源	48	48	48	39		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 男女共同参画社会の推進をはかるため、町単独事業で実施する必要がある。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 男女共同参画の認識率は未だ低い状況である。そのため町が主導となり推進していく必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 住民の団体が講演会等活動を実施し、事業への推進に繋がりがつある。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 費用をかけずにできる活動(啓発活動等)から実施している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 第2次にのみや男女共同参画プランにより、全庁的な連携を図りながら定期的に進捗状況や成果を把握して効果的な進行管理を行い、推進を図る必要があるため、引き続き事業を実施する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	・事業推進に向け、今後も関係各課・関係団体と連携をしていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	男女共同参画社会の実現に向け取り組んでいるが、周知率は低いいため、引き続き、事業に取り組む必要がある。		
今後の方向性	「男女が共に支え合う心豊かなまち湘南にのみや」を目指し、「意識の高揚」、「参画の促進」、「支援の充実」を基本方針として事業に取り組む。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	生涯学習課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(12) 人権・平和の推進		実施計画事業	1) 人権啓発活動事業 (No.49)
予算等事業名	人権教育推進事業			
目的	人権啓発キャンペーンの実施や人権関係講演会を実施することにより、「人権」に対する町民一人ひとりの意識高揚を図る。			
内容	人権意識を育むために、研修会を開催し、理解と認識を深める。			
根拠法令・条例等				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由	人権研修会、男女共同参画講演会を計画通り実施に向け準備を進めている。			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	講演会等の内容によっては検討できる。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	実施方法によっては検討が可能である。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】	人権教育は学習課題として必須の課題であり、今後も推進する必要がある。		

総合評価

実績	・人権教育研修会の実施【平成27年3月14日(土)、参加者14人】 ・男女共同参画推進事業の実施【平成26年11月30日(日)、参加者11人】			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	参加者数			
前期(27年度)目標値	60人		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成25年度 57人	平成26年度 25人	平成27年度	平成25年度の実績を維持する

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		83	67	80	79		
財源内訳	一般財源	83	67	80	79		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 人権教育は町で率先して行う必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 町が主導で、人権意識の普及啓発する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 参加者にとっては、一定の成果があると考える。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 費用をかけずに一定の成果を上げている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 継続して地道に啓発を行うことが必要である。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	より多くの方に啓発できるよう、実施内容・方法等を検討していく必要がある。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	人権教育は重要なことであり、町主催で研修会を実施している。		
今後の方向性	今後も継続して行く。		

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	福祉課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力
分野別方針	(12) 人権・平和の推進
実施計画事業	2) 平和推進事業 (No.50)

	予算事業名	事業費 執行率 (%)	総合評価
01	平和祈念事業	97.6%	A
02	ガラスのうさぎ像平和と友情推進事業	78.8%	A
03			
04			
05			
課題 (箇条書き)	・開催場所等の手法の検討		

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	説明	事業の継続により町民の平和祈念への意識啓発が図られている。

方向性			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	町の責務として戦没者の追悼と平和に対する意識高揚を継続して図っていく必要がある。今後も手法等を検討しながら同様に継続して実施する。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	戦没者を追悼し平和を願うこの事業は、第2次世界大戦が終って70年が経過した中で、多くの国民が悲惨な戦争で犠牲になった事実を風化させないためにも、重要な事業であると思う。これからは、こうした事実を後世に伝えていく様な事業とすることを、検討する余地もあるのではないか。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	福祉課			
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力		
分野別方針	(12) 人権・平和の推進		実施計画事業	2) 平和推進事業 (No.50)		
予算等事業名	平和祈念事業					
目的	平和に関する事業を実施することにより、平和に対する町民一人ひとりの意識高揚を図る。					
内容	平和を祈念し、戦没者の冥福を祈るため、戦没者遺族等参列のもと式典として挙げる。					
根拠法令・条例等	—					
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		必要最低限の費用に抑えて実施している。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		事業の継続により町民の平和祈念への意識啓発が図られている。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)						A
	【説明】 平和祈念の意識啓発や戦没者のご冥福を祈るため、今後も継続して実施する。						

総合評価

実績	—					
中間評価との相違点	—					
事業指標(数値指標)	参加者数					
前期(27年度)目標値	157人			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
単位:						
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	遺族会会員数		
	—	86人				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		318	312	327	319		
財源内訳	一般財源	318	312	327	319		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 平和を祈念し、戦没者のご冥福を祈るための事業であるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 遺族会を含む町民全体に平和祈念の意識啓発を行うため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 平和記念祭の広報、実施により平和祈念への意識啓発が図られている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 必要最低限の費用に抑えて実施している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 事業の継続により町民の平和祈念への意識啓発が図られている。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	平和祈念の意識啓発や戦没者のご冥福を祈るため、今後も継続して実施する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	町の責務として戦没者の追悼と平和に対する意識高揚を継続して図っていく必要がある。		
今後の方向性	同様に継続して実施する。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	総務課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力				
分野別方針	(12) 人権・平和の推進		実施計画事業	2) 平和推進事業 (No.50)				
予算等事業名	ガラスのうさぎ像平和と友情推進事業							
目的	平和に関する事業を実施することにより、平和に対する町民一人ひとりの意識高揚を図る。							
内容	町の平和と友情のシンボル「ガラスのうさぎ像」建立の精神を引き継ぐとともに、平和への関心を高める。							
根拠法令・条例等	—							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		必要最低限の経費で実施しているため、これ以上の削減は困難である。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		必要最低限の予算及び人員で実施を行なっているため						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 今後も町民に対して平和への関心を高めるために引き続き事業を実施していく							

総合評価

実績	毎年8月5日にガラスのうさぎ像平和と友情のつどいを開催						
中間評価との相違点	—						
事業指標(数値指標)	参加者数						
前期(27年度)目標値	500名			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
単位:							
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	—			
	250名	483名					

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		199	175	439	346		
財源内訳	一般財源	199	175	439	346		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 ガラスのうさぎ像が建てられた経緯を知ることにより、平和の大切さを後世に伝えるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 小中学生に平和教育の一環として実施するにあたり、町が主体となって行なう必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 毎年300～500名の参加があり、色々な催しを実施することにより平和の大切さを若い世代伝えることが出来ている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 実行委員会形式で実施しているが、委員については無償であり、消耗品等についても必要最低限の経費で開催している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 二宮町にガラスのうさぎ像が建てられた経緯を多くの人に知らせ、平和の大切さについて後世に伝えるため、引き続き事業を実施して行く。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	引き続き、平和の大切さについて、後世に伝えるため、事業を実施して行く。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	ガラスのうさぎ像の建立経緯と平和の尊さを後世に伝えて行くための事業として必要である。		
今後の方向性	平成26年度よりガラスのうさぎを千羽鶴で飾る事業を推進委員会の事業として取り入れた。千羽鶴の事業を含めたガラスのうさぎの事業を町の平和教育の中心に位置付けて、教育委員会や小中学校とも連携をはかりながら平和の尊さを後世に伝えて行きたい。		